

神奈川県委託事業  
あーすぷらざ外国人教育相談  
事業報告書  
2011 年度～2013 年度  
(平成 23 年度～平成 25 年度)

2015 年（平成 27 年）3 月

公益社団法人 青年海外協力協会

(神奈川県立地球市民かながわプラザ（あーすぷらざ）指定管理者)

## はじめに

「あーすぷらざ外国人教育相談」は神奈川県立地球市民かながわプラザ(通称あーすぷらざ)の指定管理事業として、2006年公益財団法人かながわ国際交流財団により開設されました。2011年からは公益社団法人青年海外協力協会が指定管理者事業を引き継ぎ、現在に至っています。

この度、2011年度～2013年度、3年間のあーすぷらざ外国人教育相談事業の報告書を作成しました。本報告書を皆様にご覧いただく目的は主に3つあります。

- 外国につながる子どもたちの現状や課題をお伝えし、今後の多文化共生社会の在り方を共に考える契機としたい。
- 本相談窓口のシステムや相談対応事例をお伝えし、必要とされている方に本窓口を存分に活用いただくための材料とされたい。
- 外国につながる子どもたち支援に取り組む各相談窓口・支援機関・支援団体と、本相談窓口との連携を模索または促進する手掛かりとしたい。

外国につながる子どもたちの課題解決に向けては、学校の先生をはじめとする教育関係者、専門機関・NPO/NGO等の方々、それぞれの立場で相談者に寄り添い、具体的な活動をされています。私たちはこれらの方々とのネットワークを強め、より充実した相談窓口を築いていきたいと思えます。

本報告書が皆様とのより一層の連携・協働のきっかけとなり、外国につながる子どもたちのよりよい未来を創る一助となれば幸甚です。

2015年3月

公益社団法人 青年海外協力協会

## 【目 次】

ごあいさつ .....	3
1. 本報告書で用いる用語について .....	5
2. あーすぷらざ外国人教育相談窓口の概要 .....	6
(1) 神奈川県立地球市民かながわプラザ（通称あーすぷらざ） .....	6
(2) 外国につながる児童生徒を取り巻く状況と あーすぷらざ外国人教育相談の役割 .....	6
(3) あーすぷらざ外国人教育相談窓口の特徴 .....	7
(4) 実施概要 .....	8
3. 実施報告 .....	9
(1) 相談実績 .....	9
(2) 相談概要（抜粋） .....	13
(3) 相談事例および対応 .....	21
4. 相談ケース会議について .....	43
5. 外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会について .....	45
6. フィールドワーク受入について .....	47
7. 教育相談に関わるスタッフ派遣・多文化共生の出前講座 .....	49
編集後記（おわりに） .....	51

## ごあいさつ

委託者：神奈川県拉致問題・国際戦略担当局長

大竹 准一

神奈川は、横浜開港以来、世界に開かれた日本の窓として、多くの外国の方々を受け入れ、現在、県内には約 160 の国と地域の 16 万人を超える外国籍の方々が暮らしています。そして、さまざまな文化が触れ合う中で、国際性豊かな精神と多様な文化が息づく、国際色豊かな地域になっています。

こうした地域の特性を踏まえ、本県では、平成元年から外国籍県民相談窓口を設置していますが、さらに、平成 18 年から外国籍児童・生徒に対する日本語学習等支援に特化した教育相談窓口を開設しています。

この教育相談事業は、地球市民かながわプラザが有する多文化多言語の資源を活用し、相談内容に応じて、地域のボランティアの方々と教育現場（教育委員会、学校等）をつなぐ役割も果たしてきました。

当初、日本語と中国語の 2 言語だった対応言語数も、現在は、日本語、中国語、スペイン語、タガログ語、ポルトガル語の 5 言語になっており、相談件数も、平成 18 年度の 253 件から、平成 25 年度には 1,229 件と大きく増加しています。

また、相談の内容も、日本の学校の仕組みや、進学、編入学、日本語学習機関や学習支援教室に関する情報提供の依頼、学校内外での悩み相談等、多岐にわたっており、外国籍児童・生徒に係る日本語学習等支援のニーズの高さが窺われます。

このように、本事業は、多文化共生の社会づくりに向けた重要な取り組みであり、今後も着実に推進していく必要があることから、これまでの実績を蓄積しておくことが大切であると考えています。

そのため、このたび、平成 23 年度から平成 25 年度までの事業実績と、相談事例及びその対応について「あーすぷらざ外国人教育相談事業報告書」としてまとめました。外国籍県民支援に係る皆様にご活用いただければ幸いです。

## ごあいさつ

神奈川県立地球市民かながわプラザ  
指定管理者：公益社団法人 青年海外協力協会  
会長 金子洋三

日頃より、あーすぷらざ外国人教育相談事業に、ご理解ご協力を賜り誠にありがとうございます。神奈川県立地球市民かながわプラザ（通称あーすぷらざ）は2011年度より当会及び（株）金港美装が指定管理者として運営に関わっています。

あーすぷらざ外国人教育相談は、多文化共生の社会づくり事業のひとつです。

多文化共生社会に向けた大きな課題のひとつとして、外国につながる子どもの問題があります。ますます活発化することが予想される人の国際移動に伴って、子どもは見知らぬ外国で暮らし、その地域の学校に通うこととなります。彼らが学校生活を送るうえで、生活習慣、日本語、学校生活、進学、友人関係など、さまざまな課題に直面することは想像に難くありません。そして、彼らの問題はそのまま保護者や教育関係者の問題にもなります。あーすぷらざ外国人教育相談窓口では、このような外国につながる子どもの課題を抱えた当事者や教育関係者からの相談に対応しています。

さて、青年海外協力協会は、「青年海外協力隊事業」に参加し、さまざまな技術分野で開発途上国の国づくり、人づくりに協力したボランティア経験者を中心に構成する公益社団法人です。私たちは、この法人の設立目的に、海外ボランティア活動で培われた行動力、技術力及び精神を、地球規模の課題や我が国が直面する諸課題の解決に活用し、世界平和の実現に貢献するという高い志を掲げました。

外国につながる子どもたちの課題においても、協力隊員として実際に異文化社会で生活した体験を通して培ったさまざまな知見も活用しながら、相談対応にあたっていただいている相談員の皆様と協力して、多文化共生社会の実現に向けて全力で取り組んで参ります。

本事業報告書は、2011年からの3年間にわたる相談窓口における相談事例をまとめたものです。外国につながる子どもたちの課題に奮闘しておられる関係者の皆様の全面的なご協力により発行に至りました。心より御礼申し上げますとともに、今後も変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 1. 本報告書で用いる用語について

## ■外国につながる児童生徒／子どもたち

「外国につながる子どもたち」には以下のようなさまざまな背景をもった子どもたちがいます。

- ・外国籍の子ども
  - ・日本生まれで両親が外国籍の子ども
  - ・日本国籍をもち外国で生まれ育った子ども
  - ・日本国籍を含む重国籍の子ども
  - ・保護者の国際結婚等により家庭内言語が日本語以外の子ども
  - ・帰国児童生徒
- 等

本報告書では、これらの多様な背景をもったすべての子どもたちを「外国につながる児童生徒／子どもたち」と呼び、使用しています。

## ■支援者

外国につながる方へ支援をしている以下のような方々を、本報告書では「支援者」として用いています。

- ・地域の日本語教室や、ボランティア学習支援教室で教えている方
  - ・学校に派遣されている日本語指導協力者、初期適応指導を行っている方
  - ・通訳者、翻訳者
  - ・外国につながる方の支援をしている NGO/NPO のスタッフ
  - ・国際交流協会、国際交流ラウンジなどのスタッフ
  - ・各相談窓口のスタッフ
- 等

## ■受検

「受検／受験」という用語については、神奈川県高等学校入学者選抜において「受検」とされているため、高校入試については「受検」という表記を用いています。

※その他、外国につながる子どもたちの教育に関する特有の用語については「3（3）相談事例および対応の紹介」の注釈をお読みください。

## 2. あーすぷらざ外国人教育相談窓口の概要

あーすぷらざでは、異なる文化、異なるルーツをもつ人々が、共に生きることのできる社会を実現するために、地球市民意識を育む学びの場を提供するとともに、多文化共生の地域社会づくりの実践者、そして、外国籍住民や支援者をサポートする事業を行っています。

### (1) 神奈川県立地球市民かながわプラザ(通称あーすぷらざ)

神奈川県立地球市民かながわプラザ(以下、通称「あーすぷらざ」と表記する)は、子どもの豊かな感性を育み、県民の国際理解や国際平和および地球的規模の課題への認識を深める目的で設置された施設です。

①「地球市民意識の醸成と多文化共生社会を築くための総合学習施設」

②「NPO等をはじめとする県民の国際交流・国際協力活動支援の拠点」

という2つの使命のもと、県民への学習機会の提供、外国籍県民への情報提供・相談サポート、NPO等への活動場所・機会の提供を行っています。

※2011年度より、公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)があーすぷらざの指定管理者として施設に関わっています。

### (2) 外国につながる児童生徒をとりまく状況とあーすぷらざ外国人教育相談の役割

神奈川県の外国籍県民(外国人登録者数)は、2014年1月1日現在160,605人(神奈川県くらし県民局国際課調べ)であり、県民の約56人に1人が外国籍県民という状況です。国籍(出身地)数は160か国に上り、人口順位別では、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジル、ベトナム、ペルーと続いています。外国籍住民の数は年々増加傾向にあります。また日本語指導が必要な外国籍児童生徒は公立の小中学校に2,578名(2013年神奈川県教育委員会子ども教育支援課9月調べ)、在籍しています。2011年度に実施された同調査では2,390名の児童生徒の在籍であったため、外国につながる児童生徒数は増加している状況です。外国人児童生徒の在籍が多い学校内には「国際教室」等と呼ばれる支援教室が設置され、教員の加配や日本語指導協力者等の派遣が行われています。神奈川県内の国際教室数は2011年度 小学校107校、中学校45校の計152校※にのぼっています。市町村や市民団体による教育関係の多言語資料の発行や、学校への通訳者の派遣なども行われています。また「特別の教育課程」による日本語指導、児童生徒が学校生活を送る上や教科等の授業を理解する上で必要な日本語の指導を、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行う教育の課程が、2014年4月1日から施行されています。

あーすぷらざ外国人教育相談は、外国につながる児童生徒の保護者、本人からの多言語による相談や、他の相談窓口関係者、学校関係者やボランティアからの相談を受けています。外国につながる児童生徒がよりよい学校生活を送れるよう、本人や保護者の不安を解消できるよう、また支援者のみなさんが安心して子どもたちの指導ができるよう、相談対応しています。

外国につながる児童生徒の背景は、外国籍の児童生徒もいれば、日本生まれで両親が外国籍の児童生徒、日本国籍をもち外国で生まれ育った児童生徒など多岐に渡っており、それぞれの背景に配慮したきめ細やかな対応が求められています。

※2012年6月神奈川県教育委員会教育局支援教育部子ども教育支援課作成、外国につながるのある児童生徒への指導・支援の手引きより、数値は、「国際教室が設置されている学校の中で、当該の児童生徒数の条件を満たしたのち、教員が加配された学校数」をもとに算出

### (3) あーすぷらざ外国人教育相談窓口の特徴

#### ① 相談コーディネーターと相談サポーターのペアで対応

あーすぷらざ外国人教育相談では、相談コーディネーターと相談サポーターの2名体制で相談にあたっています。言語が分かる、また日本文化と母国の文化の違いを知る相談サポーターが聞き取りをし、日本の諸制度を知り、各機関の内容や諸制度に通じたコーディネーターが回答をまとめ、相談サポーターが相談者に伝えています。言葉が伝わる安心感、正確な情報を掴んだうえでの情報提供を心がけ、ふたりで連携しながら対応しています。

#### ② 豊富な教材、多言語資料が揃っている情報フォーラムでの対応

あーすぷらざ外国人教育相談は、施設2階の情報フォーラム内にあります。情報フォーラムは、情報のリソースセンターとして、外国につながる方に役立つ資料を収集・所蔵し、貸出を行っています。外国人サポートコーナーの「にほんご・きょういくコーナー」では、3,000点以上の日本語教材、学習支援教材、多言語資料など所蔵しています。これらの資料と外国人教育相談窓口は、密接に関わっており、所蔵資料を活用した相談対応は他の窓口にはない特徴となっています。



#### (4) 実施概要

##### ①相談日と対応言語

火曜日	タガログ語・やさしい日本語※
水曜日	ポルトガル語・やさしい日本語
木曜日	中国語、やさしい日本語
金曜日	スペイン語、やさしい日本語
土曜日	中国語、やさしい日本語

祝日は休み

##### ※やさしい日本語

普通の日本語よりも簡単で、外国人もわかりやすい日本語のことです。

##### ②相談時間

10:00～13:00、14:00～17:00 (16:30 受付終了)

##### ③対応方法

来訪、電話、Eメール、FAX、手紙などで相談を受け付けています。

##### ③相談対応者【12名(2014年4月現在)】

相談コーディネーター：4名

相談サポーター：タガログ語 2名/ ポルトガル語 2名/ 中国語 2名/ スペイン語 2名

(スタッフ出身国) フィリピン、ブラジル、中国、台湾、メキシコ、ペルー、ボリビア、日本

※上記、相談コーディネーター(1名)と各言語の相談サポーター(1名)が常時2名体制で相談対応を行っています。

##### ④実施場所・連絡先

神奈川県立地球市民かながわプラザ (あーすぷらざ) 2階情報フォーラム内

横浜市栄区小菅ヶ谷 1-2-1

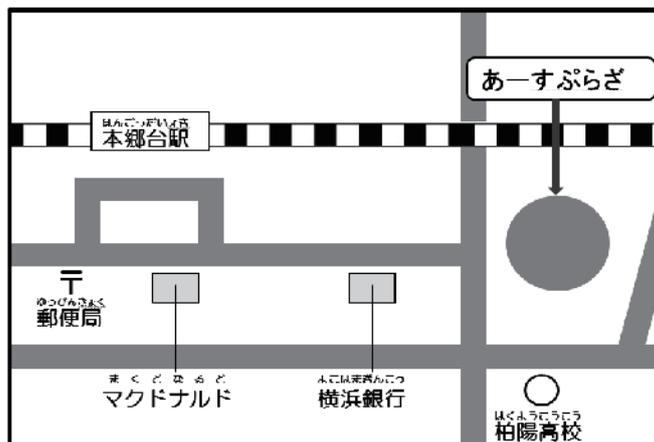
相談用電話：045-896-2972 (タガログ語/ポルトガル語/中国語/スペイン語)

045-896-2970 (日本語)

FAX：045-896-2894

Email:soudan1@earthplaza.jp

HP アドレス：[http://www.earthplaza.jp/forum/foreign\\_education/](http://www.earthplaza.jp/forum/foreign_education/)



# 3. 実施報告

## (1) 相談実績

### 相談件数

当教育相談窓口では、電話や来訪でひとりの相談者から来た相談を相談人数ととらえ数えています。複数の相談内容を含む場合には相談内容数として数えています。

例：Aさんからの相談が、i 日本語、ii 進学、iii 学費に関わる相談であったとき  
→ 相談人数は1件、 相談内容数は3件 となります。

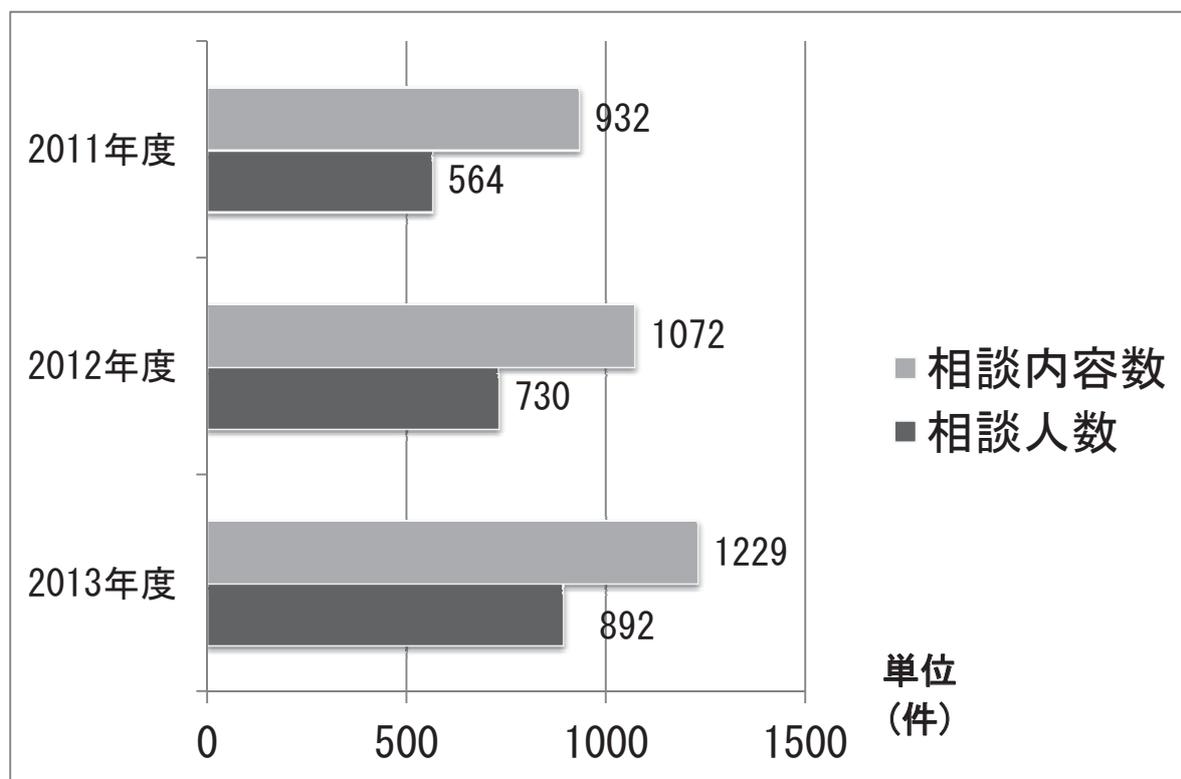
### ◆相談人数

2011年度： 564件  
2012年度： 730件  
2013年度： 892件  
計： 2,186件

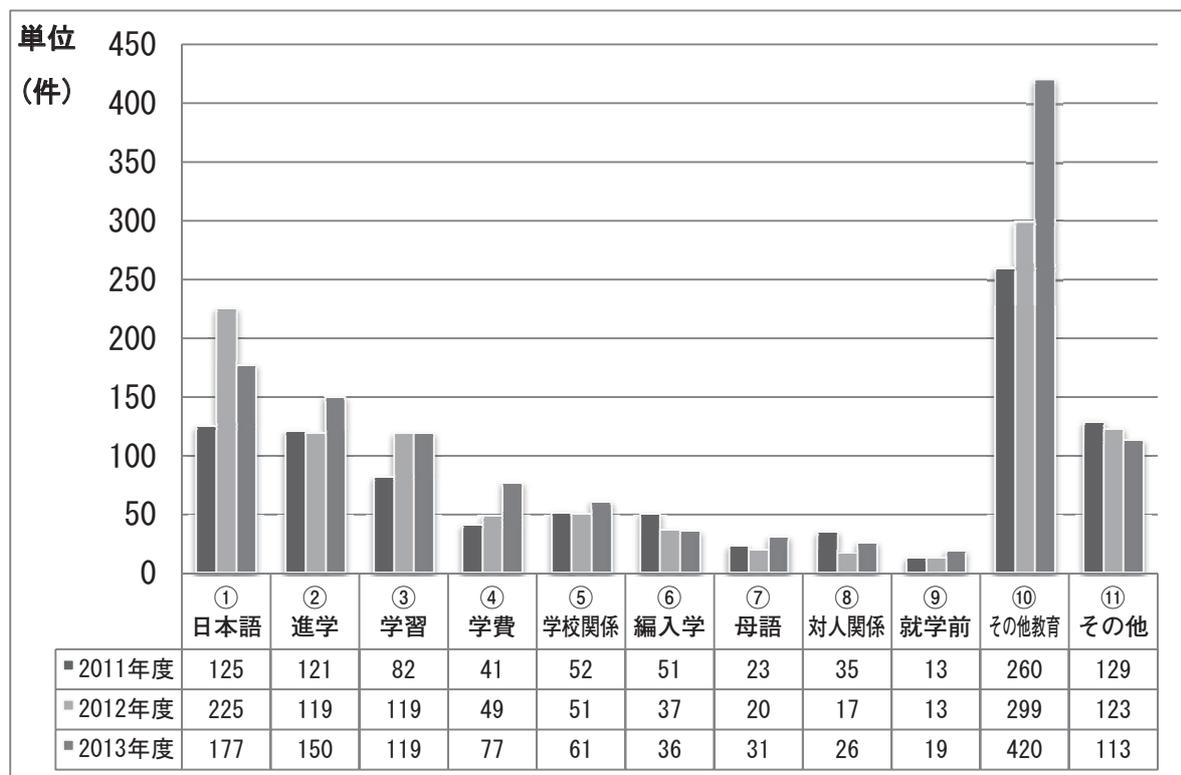
### ◆相談内容数

2011年度： 932件  
2012年度： 1,072件  
2013年度： 1,229件  
計： 3,233件

### 年度別相談件数（2011～2013年度）



## 相談内容内訳（2011～2013 年度）【3, 233 件中】

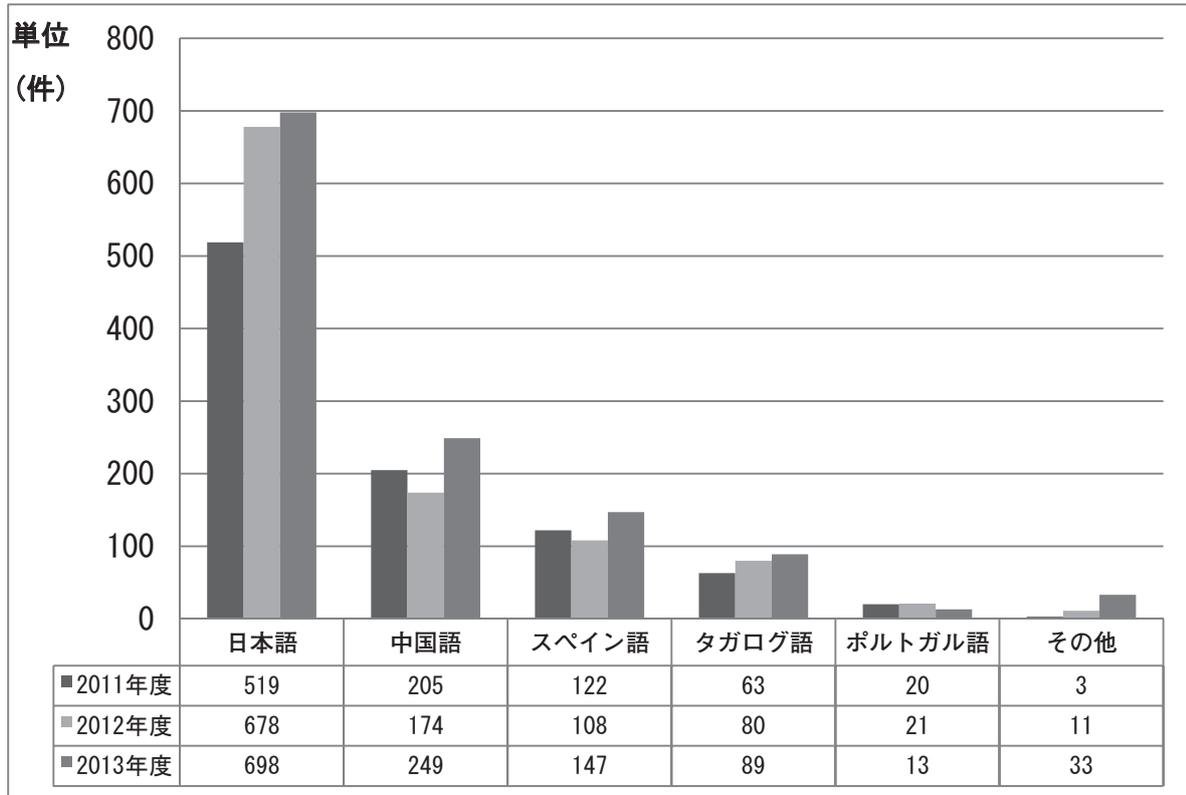


### (相談内容の分類)

- ①日本語：成人および子どもの日本語学習・指導、教室学校情報、教材情報
- ②進学：高校受検の手続き、進学と呼び寄せのタイミング、高校以外の進路、大学進学、進学とビザ
- ③学習：子どもの学習に関わる教材情報、教室などの情報
- ④学費：奨学金、授業料免除、貸付金等の情報
- ⑤学校関係：教育制度、学校の仕組み、日本の学校への不適應、学校の手紙
- ⑥編入学：小中学校への編入・入学の手続き方法、高校への編入（再入学）、大学への編入、転校
- ⑦母語・母文化：母語・母文化の学習方法、教材・資料情報、教室情報
- ⑧対人関係：いじめ、友人関係、家族関係、対人関係全般
- ⑨就学前：乳幼児期の子育て、保育園・幼稚園
- ⑩その他教育：教育関連で上記①～⑨に含まれないもの  
社会教育、生涯学習、通訳・翻訳、研修会における講師情報 等
- ⑪その他：上記①～⑩に含まれないもの  
生活相談、法律相談に関わる内容 等

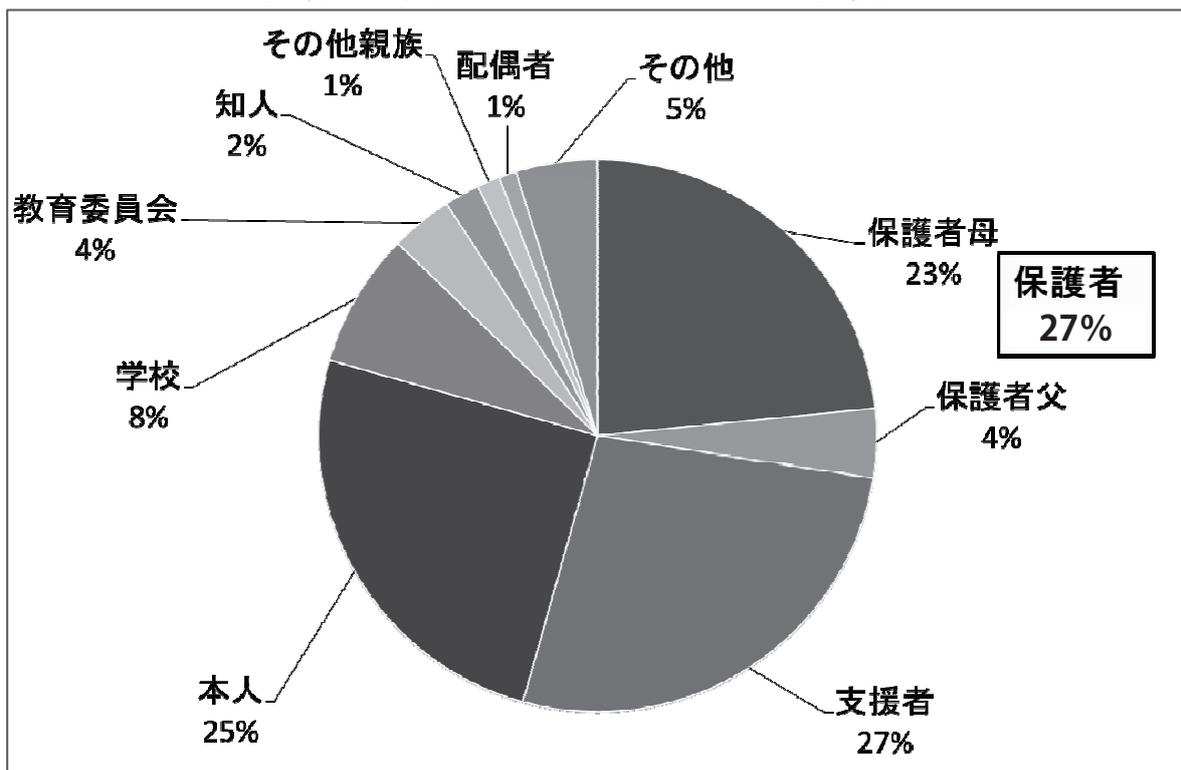
使用言語内訳

使用言語内訳（2011～2013 年度）

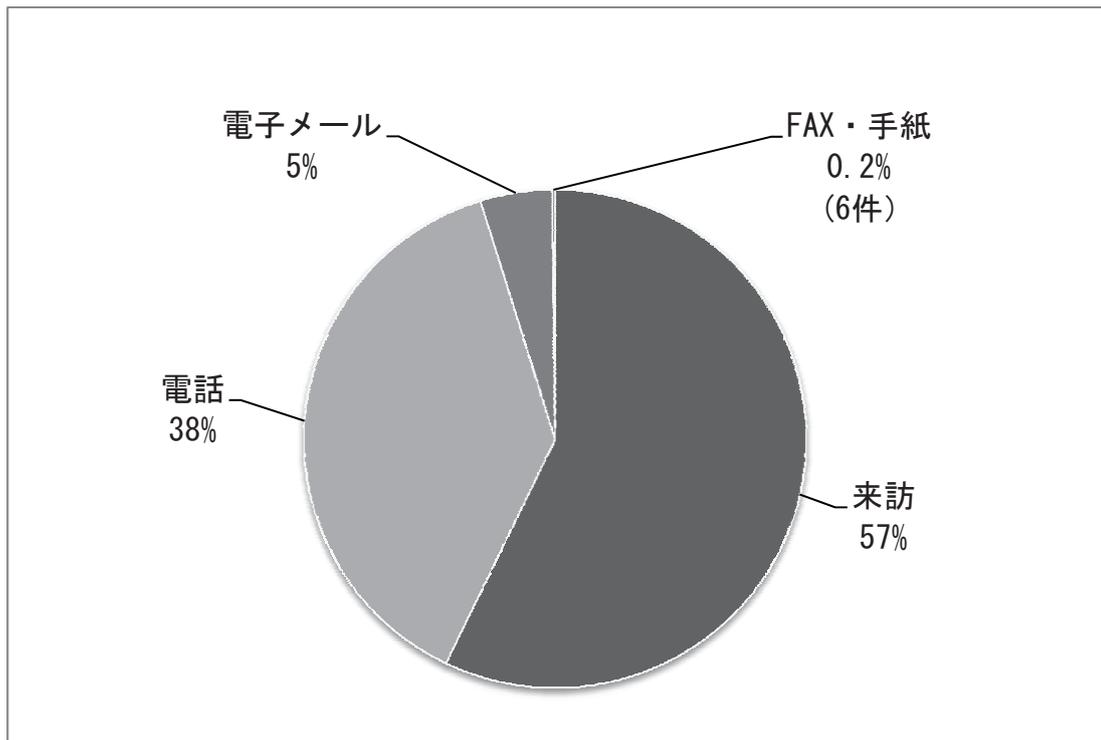


相談者内訳

相談者内訳（2011～2013 年度）



## 相談方法内訳(2011～2013 年度)



### 相談サポーターの声① どのような想いでこの仕事をしていますか？

- ・ 人に関わる仕事が好き。自分の経験を生かして役に立ちたいと思っている。
- ・ 解決したいと思う。答えを出すために役に立ちたい。自分の経験も踏まえて問題のある人を助けたい。あきらめてほしくない。できる限りの答えを一緒に探したい。
- ・ 子どもを育てている自分の経験が、何か困っている人の役に立てばよいと思っている。
- ・ 相談に乗って、相談者が自分で道を開けるように情報提供、協力すること。
- ・ 日本に来日当初、辞書を片手にあちこち回り手続きをした経験がある。自分の経験や母語で学習支援も行ってた経験を生かし、役立てたいと思った。
- ・ 困っている親子が置かれている現状、今後を合わせて考え、その人がすぐに求めていることだけではなく、なるべく状況を聞き出して、この人にとって必要な情報は何かを考える。相談者が言っていることだけが必要なことではない。
- ・ 自分の子どものことも分からないことがたくさんあり、自分のために役立つことだと思い、窓口のスタッフになった。これまでの自分の経験と相談者の経験を重ね、人の役に立ちたい。

※「相談サポーターの声」は相談サポーター（4言語8人）の声を集めたものを掲載しています。

## (2) 相談概要(抜粋)

2011～2013年度に寄せられた相談の中から300件の相談タイトルを抜粋したもの

	相談者分類	タイトル	使用言語
1	保護者母	中国にいる娘を呼び寄せる、日本語の勉強、日本の高校進学について相談したい	日本語
2	保護者母	学校と連絡帳のやりとりをしていたが戻って来ない、子どもをどのように褒めたらいいか	日本語
3	保護者母	中学校で日本語指導が受けられない、どうしたらいいか	日本語
4	保護者母	1歳になる息子を7月から通わせる事ができる保育園を探している	日本語
5	保護者母	生物に関する部活動がある高校を調べるにはどうすればいいか	日本語
6	保護者母	高校入試の模擬試験とはどのようなものか、その申し込みはどうすればいいか	日本語
7	保護者母	ボランティア教室に来たが先生がいない、どうすればいいか	日本語
8	保護者母	高校受検に出てくる語彙が分かる中国語訳のある教材を探している	日本語
9	保護者母	掛け算が苦手な子どもにどうすれば九九を覚えてもらえるか	日本語
10	保護者母	帰国子女の受け入れ体制、教育的支援が神奈川県内ではどのようになっているか知りたい	日本語
11	保護者母	子どもたちがスペイン語を学べるところを教えてください	日本語
12	保護者母	担任に定時制しか行けないと言われた、定時制高校について教えてください	日本語
13	保護者母	二次募集、志望校の昨年の倍率、多部制定時制高校の試験日などについて確認したい	日本語
14	保護者母	私立高等学校の通信制課程とは何か、私立高校の専願と併願の違いは何か知りたい	日本語
15	保護者母	高校入試をひかえた息子への関わり方について助言してほしい	日本語
16	保護者母	定時制高校を考えていたが全日制の工業系で息子に合う学校を探したい	日本語
17	保護者母	インターナショナルスクールの費用が知りたい、息子が通えそうな学習支援教室について知りたい	日本語
18	保護者母	息子が受検予定の公立高校の倍率が出たが、志願変更が必要か担任から連絡がこない	日本語
19	保護者母	子どもの進学先として栄養士養成の専門学校の情報がほしい	日本語
20	保護者母	自動車整備士になるためにはどうすればいいか	日本語
21	保護者母	高校の授業料の制度変更について知りたい	日本語
22	保護者母	子どもの大学進学にあたり給付型奨学金に申請していたがダメだった、ほかに申請できる奨学金はないか	日本語
23	保護者母	英日バイリンガルの我が子のための英語サークルの情報がほしい	日本語
24	保護者母	始業式に親も行く必要があるか、そのときの服装はどうすればいいか	中国語
25	保護者母	中国から呼び寄せる15歳の子どもの進学先に私立高校を考えている、学校に代わりに問合せをしてほしい	中国語
26	保護者母	学校から来たたくさんの書類がわからない、授業参観は行ったほうがいいのか等、教えてください	中国語
27	保護者母	日本語と中国語を教えている学校があると聞いた、その学校について知りたい	中国語
28	保護者母	子どもが保育園で友達が少ない、最近聞きわけがなく泣くようになったがどうしたらいいか	中国語
29	保護者母	日本の学校教育、PTA活動についてどうしたらよいか教えてください	中国語
30	保護者母	息子の家庭教師の費用が高すぎるように思うが、それは妥当な費用なのか	中国語
31	保護者母	美術が勉強できる県立高校について教えてください	中国語
32	保護者母	息子の様子が心配、面談のあと学校から連絡がないのはなぜか知りたい	中国語
33	保護者母	プロが子どもに野球を教えてくれるチーム、野球教室はどこにあるか教えてください	中国語
34	保護者母	卒業試験を受けないと高校を卒業できないのか知りたい	中国語
35	保護者母	3者面談で何をすればいいのか教えてください	中国語

36	保護者母	外国人学校にいれようとしたら定員一杯と言われた、日本の公立小学校について知りたい	中国語
37	保護者母	中国引揚者等特別枠のある大学について知りたい	中国語
38	保護者母	子どもが算数の文章題がわからず自分も説明できない、どうしたらいいか	中国語
39	保護者母	子どもの進級時のクラス替えと就職への不安がある、話を聞いてほしい	中国語
40	保護者母	母語教育のための教材について教えてほしい	中国語
41	保護者母	自分の子は外国人特別募集の枠にはいるか、中国語で数学を教えてくれる教室はあるか知りたい	中国語
42	保護者母	奨学金の申し込みをしたい、もう一度専門学校の入学時の支払いについて教えてほしい	スペイン語
43	保護者母	母子寡婦福祉資金（修学資金・就学支度金）の申請手続きについて教えてほしい	スペイン語
44	保護者母	国際教室での取り出し指導をやめさせたい、学校に伝えるために手紙を書くのを手伝ってほしい	スペイン語
45	保護者母	取り出しをやめてほしいと伝えたが学校は何も変わらない、どうしたらいいか	スペイン語
46	保護者母	サポート校への学費支払いについて教えてほしい	スペイン語
47	保護者母	部活中に子どもの物がなくなった、担任の先生に話をしてほしい	スペイン語
48	保護者母	私立高校から公立通信制高校への転編入手続きについて教えてほしい	スペイン語
49	保護者母	作文の指導法について教えてほしい	スペイン語
50	保護者母	中学生の子どもの部屋にたばこの空き箱があった、これからどうすればよいか	スペイン語
51	保護者母	小学校低学年の子どもが学校に行きたがらない、どこに相談すればよいか	スペイン語
52	保護者母	高校では学費はどれくらいかかるか、内申点はどのようなものか知りたい	スペイン語
53	保護者母	転校に伴う社会福祉協議会の手続きについて教えてほしい	スペイン語
54	保護者母	大学院入試に合格した子どものために活用できる奨学金の情報がほしい	スペイン語
55	保護者母	中学校卒業証明書の公印確認申請の提出先、関係ウェブページを知りたい	スペイン語
56	保護者母	中学校入学時に制服の費用を公的に補助する制度があるか知りたい	スペイン語
57	保護者母	ペルーの学校への転入手続きに必要な書類について教えてほしい	スペイン語
58	保護者母	入学を考えている私立高校の先生と話をするために通訳を探している	スペイン語
59	保護者母	就学時健診の日程や時間について知りたい	スペイン語
60	保護者母	個人面談に通訳が来るか学校に尋ねてほしい	スペイン語
61	保護者母	塾の先生に進路選択について忌憚ない意見を聞きたい	スペイン語
62	保護者母	高校定時制の学校見学申し込みをしてほしい	スペイン語
63	保護者母	私立通信制高校の退学手続きと社会福祉協議会貸付金返済について知りたい	スペイン語
64	保護者母	中2の娘の日本語学習に役立つ漢字辞典を探している	スペイン語
65	保護者母	来日したばかりの中3の娘が日本語や教科の勉強をできる場所を探している	タガログ語
66	保護者母	息子は日本語ができないが高校に行きたい、どうすればいいか	タガログ語
67	保護者母	16歳だが英語ができるので先生の資格を取る方法を教えてほしい	タガログ語
68	保護者母	21歳の息子をフィリピンから呼び寄せたい、どうすればよいか	タガログ語
69	保護者母	夜間中2年の子どもが進級して来年もこのまま学校に通い続けられるのか知りたい	タガログ語
70	保護者母	高校入試制度と不登校の息子への関わり方を知りたい	英語
71	保護者父	10年の課程を修了しパキスタンの高校を卒業してから来日する娘の進学について相談したい	日本語
72	保護者父	数学と英語用語の対訳集、日中英辞典について教えてほしい	日本語
73	保護者父	フィリピンから呼び寄せた息子が日本の高校に入るにはどうしたらいいか	日本語

74	保護者父	自閉症の子の学校への送り迎えが大変で困っている	日本語
75	保護者父	10年の課程を修了しパキスタンの高校を卒業後来日した娘の進学について相談したい	日本語
76	保護者父	小2の娘の日本語と学習をみてる教室を探している	中国語
77	保護者父	学校にカウンセラー紹介をお願いしたほうがいいか	中国語
78	保護者父	苦手な国語の補習をしてくれるところを探している	中国語
79	保護者父	専門学校学費支払いのための貸付について情報がほしい	スペイン語
80	保護者父	高校に入学した子どものクラス分けについて不満がある、クラス替えのためにどのような方法があるか	スペイン語
81	保護者父	神奈川県高等学校奨学金がいつ受け取れるか知りたい	スペイン語
82	保護者父	大学院入試に合格した、奨学金について知りたい	スペイン語
83	保護者父	高校進学に必要な点数が知りたい	スペイン語
84	保護者父	週5日通える保育園、幼稚園と保育園の違い、幼稚園の申し込みについて、公立の幼稚園はあるか	タガログ語
85	保護者父	外国人でも受け入れてくれる幼稚園を探してほしい	タガログ語
86	保護者父	中学を卒業した16歳の子ども的高校進学の手続きや勉強できるところなどを教えてほしい	タガログ語
87	保護者父	中学卒業した子と大学生、2人の子どもたちのためにさぼーと21の奨学金申請について教えてほしい	タガログ語
88	保護者父	インターナショナルスクールや高校進学について情報がほしい	ポルトガル語
89	本人	日本語能力検定試験以外の日本語の試験について教えてほしい	日本語
90	本人	あーすぷらざで開講されている中国語教室について教えてほしい	日本語
91	本人	日本語を使って子どもと触れ合えるところがあったら教えてほしい	日本語
92	本人	働くために日本語をもっと学べるところがあったら教えてほしい	日本語
93	本人	通訳ガイドの資格を取りたい、そのための勉強を教えてください	日本語
94	本人	通訳案内士一次試験の、一般常識、地理、歴史対策講座について知りたい	日本語
95	本人	自分の出身国の文化を知り紹介する催しがある、それに参加するためにはどうすればいいか	日本語
96	本人	公立小学校の外国人非常勤講師に申し込むにはどのようにすればいいか	日本語
97	本人	高校受験準備に使える数学と英語のテキストなど教えてほしい	日本語
98	本人	日本語の指導案が載っているホームページが知りたい	日本語
99	本人	高校卒業後貯金してから進学したいと思っていたが奨学金で学ぶ方法について教えてほしい	日本語
100	本人	漢字の読み方を教えてほしい	日本語
101	本人	タガログ語を使ってボランティア活動がしたい	日本語
102	本人	自分の日本語に自信が持てない、これからどうすればいいか	日本語
103	本人	面接の練習をしてほしい	日本語
104	本人	介護福祉士国家試験について、試験対策が出来る講座について知りたい	日本語
105	本人	日本語指導者養成講座について知りたい	日本語
106	本人	在職していた学校の離任式での挨拶の内容について助言がほしい	日本語
107	本人	母語のタガログ語を生かしてボランティア活動がしたい	日本語
108	本人	日本語教室があると思って来たが先生がいない、今日教室があるのか確認してほしい	中国語
109	本人	日本語学習のため日本語能力試験（N4）の本を借りたい、借りていた本を継続して借りたい	中国語
110	本人	日本語の学習をどのように続けたら良いか知りたい	中国語
111	本人	老人の心が理解出来るよう学びたい、大学の通信教育を受けたい	中国語

112	本人	日本語で文章をちゃんと書けるようになりたい、日本語の勉強をしたい	中国語
113	本人	子どもが成長したので自分らしく頑張れるもの、場所を見つけない	中国語
114	本人	語学教室の運営についてこれからどうすればよいか考えている	中国語
115	本人	大学院に行きたい、そのために必要な日本語の勉強がしたい	中国語
116	本人	台湾でよく使われている漢字の読み方と意味を知りたい	中国語
117	本人	香港の大学に留学するにあたって知りたいことがある	中国語
118	本人	夜間中での勉強で高校進学できるか心配、日本語教室、学習補習教室、高校進学について知りたい	中国語
119	本人	高校進学後、成績不振で学習意欲が湧かない、これからどうすればいいか	中国語
120	本人	高校（志望校、学校説明会、在県枠）について、学習（英語、数学、日本語）について教えてほしい	中国語
121	本人	近所づきあいが母国と違うので戸惑った、日本語教室が見学できるか知りたい	中国語
122	本人	息子が親離れした後の自分の生き方について考えている	中国語
123	本人	日本語能力試験（N4以上）受験準備講座について情報があれば教えてほしい	中国語
124	本人	育児サークルで行う親子遊びを教えてほしい	中国語
125	本人	中国語で書かれた新聞を読める場所を知りたい	中国語
126	本人	中2まで日本で学び中3を中国で卒業、高校進学について教えてほしい	中国語
127	本人	フリースクールについて教えてほしい	中国語
128	本人	外国人がとりやすい資格をとりたい	中国語
129	本人	中国語で数学の公式が分かる資料を探している、分からない問題の解き方が知りたい	中国語
130	本人	今日高校に見学に行くと聞いたが行けなくなったことを先生に伝えてほしい	中国語
131	本人	日本に帰化した人もJICEの「日系人就業準備研修」を受講できるか	中国語
132	本人	在県枠の高校の志願倍率が知りたい	中国語
133	本人	近隣住民とのトラブルをどうしたらよいか	中国語
134	本人	大学通信教育心理学専攻に編入するにあたって、教えてほしいことがある	中国語
135	本人	息子が通っている教室で自分も日本語を教えてもらいたい	中国語
136	本人	志望高校に不合格だった、日本語学校・補習教室・英検日程・図書館・本の貸出し等について知りたい	中国語
137	本人	日本語を声に出して話す練習がしたい	中国語
138	本人	保育士、幼稚園教諭の資格が取得できる専門学校の情報がほしい	スペイン語
139	本人	日本語能力試験3級の受験準備がしたい、大学に入るために必要な情報が知りたい	スペイン語
140	本人	JASSO 奨学金申請方法について具体的に知りたい	スペイン語
141	本人	日本の学校施設について知りたい	スペイン語
142	本人	日本語を勉強したい、ボランティア日本語教室を探している	スペイン語
143	本人	手話と英会話を勉強したい、勉強できる教室を教えてほしい	スペイン語
144	本人	日本国籍取得の条件が記載されている資料があれば教えてほしい	スペイン語
145	本人	高校に提出する進路関係の書類の添削をしてほしい	スペイン語
146	本人	AO入試のための面接準備に協力してほしい、入学金の工面についての情報がほしい	スペイン語
147	本人	入学願書への記入内容の確認をしてほしい	スペイン語
148	本人	ビザ更新のために日本語教室の先生に在学証明書を依頼してほしい	スペイン語
149	本人	専門学校願書に記入する内容、入試日程について確認してほしい	スペイン語

150	本人	JASSO奨学金の選考結果がまだ届かない、ダメだった場合の他の方法が知りたい	スペイン語
151	本人	保育専門学校の願書記入を教えてほしい	スペイン語
152	本人	大学受験資格（12年の教育課程）を得るためもう1年必要なので高3に編入したい	スペイン語
153	本人	高校を中退したがやはり高校を卒業したい、どうすればよいか	スペイン語
154	本人	専門学校保育士養成科の見学の際に聞くべきことを確認したい	スペイン語
155	本人	もと在籍した定時制高校に再入学する意思はなく別の定時制への入学を考えている	スペイン語
156	本人	専門学校入試の面接の練習をしてほしい	スペイン語
157	本人	定時制高校入試に備えどのような勉強をしたらいいか知りたい	スペイン語
158	本人	4年前に定時制高校3年で退学したが再入学について教えてほしい	スペイン語
159	本人	保育士の資格が取れる専門学校の情報がほしい	スペイン語
160	本人	高校入試の出願に必要な書類の入手場所と入試の作文の書き方が知りたい	スペイン語
161	本人	スペイン語説明のついた日本語学習の本を教えてほしい	スペイン語
162	本人	出生証明書の翻訳してもらいたい、どこに頼んだらいいか教えてほしい	スペイン語
163	本人	日本語の勉強が出来る教室を教えてほしい	タガログ語
164	本人	ヘルパーや英語教師の仕事、日本語を勉強できるところの情報がほしい	タガログ語
165	本人	履歴書の書き方を教えてほしい	タガログ語
166	本人	日本語会話を勉強したい、勉強できるところを教えてほしい	タガログ語
167	本人	外国人向けのパソコン教室を探している	ポルトガル語
168	本人	英語の教師の仕事を始めようと考えている、どうすればよいか	英語
169	本人	あーすふらぎ近辺の日本語教室について教えてほしい	英語
170	本人	サッカーの審判の資格を取りたい、どのようにすればよいか教えてほしい	英語
171	本人	明日初めて面接に行く、どんなことを聞かれるか確認したい	英語
172	本人	日本語教室に行けなくなったことを先生に伝えてほしい	英語
173	支援者	保育園と幼稚園の違い、申し込み方法が分からない中国人夫婦に説明するにはどうすればいいか	日本語
174	支援者	高校卒業後、引きこもりになった青年へ今後どのようにアプローチできるか知りたい	日本語
175	支援者	母語の大切さ、母語支援の重要性を伝えるにはどうすればいいか	日本語
176	支援者	生徒が高校進学後これまでの勉強の仕方と異なり戸惑っている	日本語
177	支援者	養護学校に進むことにした、勉強の習慣をつけるにはどうしたらいいか	日本語
178	支援者	日本語習得状況をはかるテストについて知りたい	日本語
179	支援者	神奈川県内の外国人学校について教えてほしい	日本語
180	支援者	もし生徒が高校を退学してしまったら、そのあと他の高校に通うことができるか	日本語
181	支援者	日本語指導を担当しているフィリピン出身中3生徒への入試時の配慮などについて知りたい	日本語
182	支援者	神奈川県内でブラジル人を対象に特別な取り組みをしている学校、在県枠、国際教室について等を知りたい	日本語
183	支援者	中国育ちの日本語が分からない日本人の子について教育相談を紹介してよいか	日本語
184	支援者	ポルトガル語を活かして子どもの学習支援をしたい	日本語
185	支援者	日本語教育能力検定試験について、日本語教師の資格について知りたい	日本語
186	支援者	お勧めの絵のついた教材、会話の教材について教えてほしい	日本語
187	支援者	3月に来日した中3生徒の高校受検に向けてどのような支援をしていけばよいか	日本語

188	支援者	活動している自治体で使用されている教科書を知りたい	日本語
189	支援者	軽度発達障害の子をもつフィリピン人母が子どもを一時預けられるところを探している	日本語
190	支援者	引きこもりから抜け出しつつある生徒のために高校卒業後の進路の選択肢を知りたい	日本語
191	支援者	スモールステップで子どもが学べる教材の情報がほしい	日本語
192	支援者	最近のブラジルにつながるのある子どもたちの動向が分かる資料を探している	日本語
193	支援者	ベトナム人夫婦が子どもを呼び寄せるときに子どもへのサポート体制も含め、どこに住めば良いかを考えている	日本語
194	支援者	英語で算数用語が分かる資料を探している	日本語
195	支援者	一般募集での特別な受検方法、学校ごとの説明会日時などを知りたい	日本語
196	支援者	日本語教室の生徒がクラスについて何か希望を言っていなかったか知りたい	日本語
197	支援者	学習内容が未定着な生徒への教科語彙指導のための教材情報がほしい	日本語
198	支援者	学習支援をしている生徒が学校外で学習できる場所、学習の参考になる資料を知りたい	日本語
199	支援者	中国語で学習支援ができるボランティアのリストはあるか	日本語
200	支援者	在県枠のある県立高校について知っている情報があれば教えてほしい	日本語
201	支援者	「カ」と「タ」、「ゴ」と「ド」、「フ」の発音指導について知りたい	日本語
202	支援者	児童養護施設にいる子が全日制高校を受験できるか知りたい	日本語
203	支援者	地域の学習支援教室で教えたい	日本語
204	支援者	軽度発達障害が疑われる2歳男児の息子にあった療育が受けられるのは中国か日本か、どうアドバイスすればいいか	日本語
205	支援者	日本語教育が受けられる高校、校外の日本語教室について知りたい	日本語
206	支援者	大人のための生活につながる日本語について役立つ教材があったら教えてほしい	日本語
207	支援者	在県外国人等特別募集について知りたい	日本語
208	支援者	ボランティアのためのスペイン語を学び続けたいので良いところがあったら教えてほしい	日本語
209	支援者	英語やスペイン語を使ってボランティアができる場所、スペイン語の資料について知りたい	日本語
210	支援者	日本語を教えるための講座を開催しているところを知りたい	日本語
211	支援者	フィリピンでハイスクール（10年）を卒業した生徒の高校転入について教えてほしい	日本語
212	支援者	ベトナム人夫婦の10歳の子が来月来日予定、学校手続きについて教えてほしい	日本語
213	支援者	フィリピンからの生徒について母親に聞いてほしいことがある、その子へ進路指導をするにあたって情報がほしい	日本語
214	支援者	お正月について説明したいので資料を探している	日本語
215	支援者	神奈川の公立高校でのポルトガル語授業についての情報がほしい	日本語
216	支援者	フリースクールの月謝の支払いについて聞いてほしいことがある	日本語
217	支援者	奨学金の返還をする際にはどのようなになっているのか知りたい	日本語
218	支援者	日本の学校に在籍した子がブラジル帰国時にもらう書類を証明する手続きについて知りたい	日本語
219	支援者	自閉症の診断基準について知りたい	日本語
220	支援者	フリースクールに通っている生徒たちが冬休みに勉強できる場所はないか	日本語
221	支援者	歯科助手になるにはどうしたらよいか教えてほしい	日本語
222	支援者	お産の介助、ホームヘルパー2級にあたる資格を取るためにはどうすればよいか教えてほしい	日本語
223	支援者	子どもが興味をもって日本語を覚えるためにどのような工夫ができるか	日本語
224	支援者	私立高校に合格後、学費が払えないことに気づいた生徒を助ける手立てがあるか知りたい	日本語
225	支援者	日本語教室に来ると連絡があったのに、来ていない方についてお願いしたいことがある	日本語

226	支援者	あーすぷらざに所蔵しているボリビア関連の図書について教えてほしい	日本語
227	支援者	志願変更後の神奈川県内在県枠高校の倍率を教えてください	日本語
228	支援者	就学前の子の相談はできるか、自閉症説明用中国語資料はあるか、相談者を連れて行くには予約は必要か	日本語
229	支援者	仕事が続かない18歳の青年が相談できる機関について情報がほしい	日本語
230	支援者	フィリピン人母のいる私立高校2年に通う子どもの進学について教えてください	日本語
231	支援者	ベトナム語母語教室、外国人特別枠受検、補習教室の所在、相談対応者になる方法について知りたい	日本語
232	支援者	母語支援をしているグループの助成金申請について教えてください	中国語
233	支援者	母語や母文化の知識、経験を生かして何かをしたい	中国語
234	支援者	中国語で体験を語り合える交流の場が必要と感じている、そのことで相談したい	中国語
235	支援者	ペルー人の知人の娘が日本への留学を考えている、日本留学奨学金について教えてください	スペイン語
236	支援者	南米系の子どもの事でのどのような難しい相談があるか	スペイン語
237	支援者	高校進学のための奨学金についてスペイン語の情報がほしい	スペイン語
238	支援者	中高生のための数学英語の語彙を覚えるためのフィリピン語対訳の教材について知りたい	タガログ語
239	支援者	ブラジル人家庭で子どものつまづきが何であるかをボランティアで支援しながら見ていきたい、どうすればいいか	ポルトガル語
240	学校	授業で使うポルトガル語の資料を探している	英語
241	学校	在校生の中国人生徒の日本語教室の曜日を変えることは可能か、これからも母親のために学校関係の書類を見てほしい	日本語
242	学校	クラスメートとうまくコミュニケーションがとれない生徒のためによい教材はないか	日本語
243	学校	新在留管理制度になり在留資格のない児童生徒への対応をどのようにすればいいか	日本語
244	学校	就学援助申請に必要な書類について保護者に連絡してほしい	日本語
245	学校	ボランティア教室の先生に学習支援を受けている生徒の事でお礼を伝えてほしい	日本語
246	学校	日本籍中国つながりの小1のための日本語補習教室を教えてください	日本語
247	学校	高校生のための教科別語彙集、外国人のための特別入学枠のある大学について知りたい	日本語
248	学校	日本語と母語の両方の習得が十分でなく認知面の発達にも課題のある子へどう支援をしていけばよいか	日本語
249	学校	タガログ語で書かれた保護者向け資料と、生徒用教材を探している	日本語
250	学校	2週間後にタイから学生が来ることになった、参考になる資料はあるか	日本語
251	学校	ブラジル出身の6年生が漢字を覚えるための教材を探している	日本語
252	学校	ベトナム出身の母親に母語の大切さを理解してもらいたいがどうすればいいか	日本語
253	学校	中国人生徒がクラスメートとコミュニケーションをとるためのツール等を教えてください	日本語
254	学校	生徒指導にかかわる面談のスペイン語通訳の手配してほしい	日本語
255	学校	公立中学在籍生徒の進路選択に際し外国につながる子が多く進学する高校の情報がほしい	日本語
256	学校	高校卒業後帰国予定の生徒のために生徒の母国の専門学校について情報がほしい	日本語
257	学校	パーマネントのビザで保育士試験は受けられるか知りたい	日本語
258	学校	ポルトガル語の高校進学ガイドブックを在校生の母に渡したい	日本語
259	学校	保護者と学期末の面談日について打ち合わせしたいが、どうしたらよいか相談したい	日本語
260	学校	ベトナム出身の母親にベトナム語の教材を紹介したい、どのような資料があるか教えてください	日本語
261	学校	自閉症の子の今後のサポートの進め方についてどう進めていけばよいか知りたい	日本語
262	学校	ボランティア教室に通っている子どものことで担当のボランティアの先生と話したい	日本語
263	学校	特別支援級に通っているペルーのお子さんの学習に役に立つ資料を探している	日本語

264	学校	フィリピン系の新しい生徒のために取り出しや授業や入り込み指導ができる講師を探している	日本語
265	教育委員会	中国人生徒への中国語での注意書き、指導について添削してほしい	中国語
266	教育委員会	パキスタンから来た子の支援のためのウルドゥ語の資料、通訳について情報がほしい	日本語
267	教育委員会	フィリピンの教育制度が変わったことを確認したい	日本語
268	教育委員会	日本語が全くできないフィリピンからの生徒のための支援に使える資料を教えてください	日本語
269	教育委員会	学校での面談通訳を探すときにどこに連絡すればよいか知りたい	日本語
270	教育委員会	タガログ語でWISCの検査が受けられるところがあったら教えてください	日本語
271	教育委員会	日本語教室や補習教室の情報を知りたい、そこでは親子で教室の時間を合わせられるか	日本語
272	教育委員会	中学3年の生徒を高校進学ガイダンスに連れて行こうと思う、ガイダンスに関する資料がほしい	日本語
273	教育委員会	来春高校1年を終えて近隣県に転居するフィリピン人生徒の高校編入について分かる範囲で情報がほしい	日本語
274	教育委員会	中国語の通訳派遣の依頼があって派遣する際、中国の公用語が通じない場合があるか	日本語
275	教育委員会	教科書が早い段階で読めるようになるような子ども向けの日本語総合教科書を探している	日本語
276	教育委員会	イスラム教の生徒が中学校にあがるにあたって留意する点について知りたい	日本語
277	教育委員会	国際教室の先生方に日本語指導について話してくれる講師を探している	日本語
278	知人	ヘルパーの勉強、仕事ができるような日本語の勉強ができる場所を探している	日本語
279	知人	知り合いの16歳の子が日本語ができないが学校に行きたいと言っている、どうすればいいか	日本語
280	知人	中学校卒業証明書の公印確認申請の提出先がどこか知りたい	日本語
281	知人	ビザを出してくれる日本語学校に通いたい	日本語
282	知人	日本の学校で英語助手として働くための条件について知りたい	日本語
283	知人	スペイン語圏出身の知人が子どもの学校に相談に行きたいと希望している	日本語
284	知人	高校に不合格だったクラスメートのことが心配だ、自分になにかできることはないか知りたい	中国語
285	その他親族	中国に住んでいる姪が日本留学に関心がある、情報があったら教えてください	日本語
286	その他親族	弟の子どもがフィリピンで受けられる教育について知りたい	日本語
287	その他親族	フィリピンにいる妻の甥の子どもを日本で学校に通わせたい、どうしたらよいか	日本語
288	その他親族	妹（中国）が留学生として学べる専門学校について教えてください	日本語
289	その他親族	フィリピンにいる甥っ子が日本への留学を考えている、どうすればよいか	日本語
290	その他親族	夏休みに一時帰国する孫の学習支援教室を探している	日本語
291	その他親族	来日したばかりの姉が日本の事を知るためによい資料があれば教えてください	タガログ語
292	配偶者	外国出身の妻が看護学校を経て看護師として働くための日本語学習法を知りたい	日本語
293	配偶者	英語教育で修士課程を取った夫が講師として英語を教えられる場所を探している	日本語
294	配偶者	夫が介護講座の受講を希望している、介護の講座があれば教えてください	スペイン語
295	その他	卒論執筆のために外国につながるのがある生徒対象のアンケート調査をどのように実施すればいいか	日本語
296	その他	知り合いの外国人のために保育園関連の英語の資料、英語の保育園について教えてください	日本語
297	その他	母語支援のための助成金申請等について教えてください	日本語
298	その他	外国の方からの日本政策金融公庫への教育ローンの申請について教えてください	日本語
299	その他	食中毒予防に関する、外国語で書かれた資料のデータがどこにあるか知りたい	日本語
300	その他	中国語を勉強したいと思った時に習えるところを知りたい	日本語

### (3) 相談事例および対応

ここでは、相談内容と対応の詳細をいくつか紹介する。事例は3年間(2011～2013年度)あーすぷらご外国人教育相談に寄せられた相談をベースにしている。個人の特定を避けるため、国籍や内容に変更を加えフィクション化しているが、事例の本質的な部分を変えていない。

「日本の学校に通う外国につながる児童・生徒・保護者はどんな悩みを抱えているのか。彼らと接する学校の先生はどんな工夫をしているのか。相談窓口にはいかなる相談が寄せられるのか。どのような対応をしているのか。支援団体はいかなる活動をしているのか。相談窓口と支援者と学校の連携はあるのか。外国につながる子どもをサポートする制度があるのか。それらの制度は万全か。問題を未然に防止するにはどうすればよいか。」

ここに挙げる事例が、外国につながる子どもや保護者の現状や課題、今後の多文化共生社会の在り方を考える契機となれば幸いである。

#### 【事例の見方】

■相談タイトル：主たるテーマを短く表現

■相談事例詳細：

相談者	窓口で相談をした人
相談対象者	誰についての相談か（本人、または、相談者にとっての「子」「生徒」など）
対応言語	相談に使った言語（日本語は、適宜「やさしい日本語」を使用）
相談形態	相談形態：来訪、電話、電子メール、相談回数等 相談期間：どれくらいの期間、相談があったか
■相談内容 ■窓口での対応 ■その後の経過	【相談】 相談者からの相談や主張を一人称で(セリフ調で)記載  【対応】 窓口での対応を三人称で(客観的に)記載  -----  【経過】 相談者その他からの経過報告

※問い合わせ先の部署名や制度は相談当時のもので作成しているため、現在は変更している可能性がある。

■本ケースからの学びと課題・展望：

このケースを通しての窓口としての学びや、外国につながる子どもたちを取り巻く課題、それに対する今後の展望などを記載

事例①【子どもが通える幼稚園を探していたケースについて】

相談者	保護者父、保護者母
相談対象者	子「A」(3歳)
対応言語	スペイン語
相談形態	電話、来訪、Eメール 計10回 相談期間 6月～翌年4月
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談①】一時保育に通っている保育園では毎日通うことはできないと言われた。毎日通うことのできる保育園はあるか。</p> <p>【対応①】現在保育園に毎日通うためには母親が月16日以上、1日4時間以上働いていなければならないこと、一時保育には時間の上限があることを伝えた。幼稚園であれば母の仕事の有無に関係なく子どもを一定時間毎日預けることができることを伝えたところ、Aを幼稚園に通わせることに決めたようだ。地域の一番近い幼稚園を紹介し、その幼稚園に通う手続きを進めるとのこと。</p> <p>【相談②】幼稚園の人に説明会には通訳の人を連れてきてほしいと言われた。通訳派遣は行っているか。</p> <p>【対応②】あーすぷらざから通訳の派遣は行っていないことを伝え、該当自治体の通訳派遣制度、通訳派遣をしている団体に問い合わせた。小中学校では相談者の負担なく通訳を派遣してくれる自治体もあるが、いずれも幼稚園の場合は費用がかかるということ、個人での依頼は受け付けていないという回答であった。近隣の自治体にも問い合わせたところ、派遣される地域が自治体内に限定されているということも分かった。結局、本人たちはスペイン語と日本語の分かる友人を連れて行ったようだ。</p> <p>【相談③】以前紹介してくれた自宅近くの幼稚園に「外国人の両親だと受け入れが難しい」と言われた。外国人の両親でも通える幼稚園を教えてほしい。</p> <p>【対応③】該当地域の幼稚園10園に問い合わせたところ、「両親が外国人でも受け入れています。」と返事をはっきりくれた幼稚園は私立の2園であった。ほかの園はいずれも、両親どちらかが日本人である、あるいは日本語が堪能である外国人保護者の子が入園しているが、両親ともに外国人でやりとりが難しい方はいないという回答であった。相談者にはこの2園について情報提供し、ほか保護者自身が見つけてきた幼稚園の中から選択することにしたようだ。</p>

【本ケースからの学びと課題・展望】

■通訳派遣について

1. 幼稚園（私立）への通訳派遣は費用等の面で外国人保護者にとって活用しづらい状況である。
2. 現状の行政制度では近隣でも自治体をまたいで通訳を派遣することが難しい。

■幼稚園の受入体制

私立幼稚園において外国につながる子どもたちの受入体制はケースバイケースである。現状はまだまだ受け入れに消極的な園が多い。

事例②【国際教室<sup>※1</sup> 取り出し指導<sup>※2</sup>のメリット、デメリットについて】

相談者	保護者「Z」
相談対象者	子「B」(小学3年生、日本生まれ)
対応言語	中国語
相談形態	電話5回、来訪2回
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談①】娘Bは小1から週2回4時間、国際教室で取り出し指導を受けて3年目になる。放課後は塾に通い、国語と算数のテストは90点台が多い。担任は取り出し指導は必要ないと考えて管理職に伝えたが、取り出しは続いている。Bは「クラスの授業が受けられないと勉強が分からなくなる。国際教室では漢字練習しかしない。クラスで友達と一緒に勉強したい。」と言って取り出し指導を嫌がっている。「国際教室通級をやめさせたい。」と伝えるために校長に会いに行ったら「今日は会えない。」と言われ、教頭と話したが何も変わらない。私達の要望を聞き入れない学校の態度に不満だ。</p> <p>【対応①】日本の慣習として、保護者は先生方の都合に配慮して事前連絡なしに学校に行かないようにしていることを伝えた。その上で、今回はZが片言の日本語で要望を伝えようとしたために学校側もZの意図を正しく理解できず、双方に誤解と疑念が生じた可能性があることを説明した。その後、保護者Zの要望（取り出し指導の回数減、入り込み指導<sup>※3</sup>への変更、国際教室で苦手な作文指導をしてほしいこと）を母語で聞き取り、Zから聞くことができた学校への感謝の思いも加筆して校長宛ての手紙作成をサポートし、後日Zが校長に届けた。</p> <p>【相談②】手紙を渡しても状況は全く変わらない。教育委員会に要望を伝えてほしい。</p> <p>【対応②】教育委員会に電話で事情を説明し、ZとBの意向を伝えたところ、同校の管理職に働きかけてもらえることになった。その後、取り出し指導は週2回2時間となったが、指導内容は漢字のドリル練習が続き、ZとBの要望に沿ったものとはならなかった。</p> <p>-----</p> <p>【経過】状況が改善しないまま、家族全員、母国に戻るようになった。</p>

【本ケースからの学びと課題、展望】

■学校に求められる配慮

1. 日本語指導協力者<sup>※4</sup>、国際教室担当教諭の取り出し指導が、児童生徒の教育課題に合ったものか指導方法、指導内容について定期的に点検、評価すること
2. 児童生徒の学習達成状況や取り出し指導の方針について学校と保護者間で情報を共有し、合意形成がなされること
3. 異なる文化を背景に持つ学校と保護者間をつなぐため、通訳を活用すること

## ■外国人保護者が持つべき知識、姿勢

1. 学校訪問時の手順(事前連絡等)を知り、これに則って行動すること
2. 子どもの学習状況や学習内容について関心を持ち、その実態を把握すること

- ※1 国際教室…加配教員が担当する外国につながる子どもたちの取り出し学級を本報告書では「国際教室」として使用する。自治体によっては「国際学級」「日本語教室」などと呼ばれている場合もある。神奈川県教育委員会では外国籍児童生徒の在籍が5名以上あると1名加配、20名以上あると2名加配となっている。
- ※2 取り出し指導…在籍学級以外の教室で個別や少人数で日本語学習、教科学習などの指導や支援を行う方法。
- ※3 入り込み指導…在籍学級での授業、一斉指導のなかで、日本語担当者あるいは母語支援者が児童生徒のそばに付き添い学習を支援する方法。
- ※4 日本語指導協力者…学校に初期の日本語習得および学校生活の適応などの支援をするために派遣される支援者。自治体によって「日本語指導等協力者」「日本語講師」「日本語支援員」「日本語指導員」など呼称はさまざまあるが、本報告書では日本語指導協力者と呼ぶ。

## 相談サポーターの声② 仕事をするなかで印象的で嬉しかったこと

- ・窓口の仕事を通して相談者を手伝えたとき。  
例えば、資料を読むのを手伝った。読めなくて理解でいなかったことが理解できた。学校の制度が分からなくてそれが分かったことなど。
- ・情報を伝えたことによって、相談者の不安が解消されたとき。
- ・相談窓口に来て、少しずつ問題が解決して、最後に「ありがとう」と言って、うれしそうに帰っていったこと。

事例③

【保護者と学校が話し合い不登校気味だった生徒が少しずつ登校できるようになったケースについて】

相談者	保護者「Y」
相談対象者	子「C」(中学2年生)
対応言語	タガログ語、日本語
相談形態	来訪1回 電話4回
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談】息子Cが学校でいじめを受けて登校できなくなった。初めは数人の友だちが原因だった。学校に相談したらCを1人で別の教室で勉強させるようになった。いじめた方がそうなるのは分かるが、Cを別の教室にするのはおかしい。Cは不登校になり昼夜反対の生活をして、家でパソコンゲームをしてばかり。時々学校に行く程度。学校は対応すると言ったけれど、何もしていないのと同じ。</p> <p>小学校までは問題が無かった。今はいじめの問題で本当に大変。最近はお母さんに対しても反抗的で話し合いも難しくなってきた。どうしたらいいのか。</p> <p>【対応】話をよく聞いた上で「学校がCを1人で勉強させたのは先生と少人数の方が落ち着いて良いと思ったのではないか」「一番困っているのはC本人。責めるのではなく寄り添う気持ちで話をしているか」等話したが、納得できない様子だったので、事実確認も兼ねて保護者Yの了承を得て学校に連絡した。</p> <p>学校側は「クラスの生徒全員に対して人を傷つけてはいけない。互いに良いところを認め合って生きていく大切さを伝え、今後同じようなことを起こさないように話し理解させた。Cには保健室で個別に勉強させながら、様子を見て徐々にクラスに戻っていったら良いと考えている。担任は家庭訪問等をして見守っている状態。Yと校長面談を設定したが、Yが来校されなかったので次の面談について心配していたところ。以前、日本語のできる方が同伴していたがYには内容が正確に伝わっていない事が分かったので、学校の方で通訳を依頼して対応を続けたい。」とのこと。その旨をYに伝えた。</p> <p>それを聞いたYは「友だちが時々来ることは知っていたが、担任の先生が家を訪問していたことは知らなかった。Cが登校できるようにならないのは学校が対応していないからで、話しても無意味だと思っていたので校長面談には行かなかった。」という。学校もとても心配していて、Yがどのような事を望んでいるのか、Cのために何ができるのか、通訳を介して改めて話し合っただけで対応したいと思っていることを伝えると、Yも少し落ち着いた様子で帰られた。</p> <hr/> <p>【経過】後日、学校からYに伝えてほしい事があると依頼があったので、その際、Yに話を聞いたところ、「面談は行われた。少しずつだがCの生活が改善に向かい、登校する日が増え、課外授業にも参加した。」とのことだった。</p>

## 【本ケースからの学びと課題・展望】

### ■外国につながる保護者と接するにあたって大事なこと

習慣の違いや言葉の問題で起こる理解不足によって不信感を募らせてしまうことがある。小さな疑問のうちに目を摘み、問題の深刻化を防ぐために、保護者、本人、学校、その他関係者が未然に防ぐようコミュニケーションに努めることが肝要である。

### 相談サポーターの声③ 相談を受ける時に気をつけていること

- ・文化の違いは丁寧に説明するようにする。集団生活をこれから送る生徒たちに対しては心構えや友達や先生とどう付き合うかなどを伝え、相互理解を促すように働きかけている。

事例④【日本の学校生活のことを来日したての保護者・生徒に随時説明したケースについて】

相談者	保護者「X」（日本語ができない）、子「D」（中学1年生、日本語ができない）、学校関係者
相談対象者	D本人
対応言語	タガログ語、日本語
相談形態	学校関係者:電話1回、来訪3回 / 保護者・子:来訪による相談多数 中学1年編入時～3年になるまでの長期の相談
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【学校からの相談①】(2月下旬)日本語が分からない生徒が5日前に1年生に編入した。生徒と保護者に、初期適応指導<sup>※5</sup> 日本語教室<sup>※6</sup> 水曜は5限で終わるため保護者が希望する地域のボランティア学習支援教室<sup>※7</sup> の学習時間に間に合うこと、体調が悪くなったら保健室に行くことなど、学校生活に関することを伝えたい。</p> <p>【Xからの相談①】制服や体操着、校章の購入方法、その取扱店の場所と時間、上履や靴下の色、通学時の鞆の種類、通学は運動靴で可能か知りたい。</p> <p>【対応①】学校、保護者X、生徒Dを交えてあーすぷらざで話す日を設定した。当日は校長、養護教諭、担任、X、Dが同席し、互いに伝えたいこと、聞きたいことを、その場で両者に確認しながら双方に伝えた(上履きは指定の色。運動着は長袖。靴下の色、使う鞆は自由。運動靴で通学可。制服や校章は近くの指定店で購入など)。制服の件では、校長が指定店の地図を書き、「これから親子が採寸に行く」とその場で連絡をいれてくれた。</p> <p>Xは初期適応指導を希望した。日本語教室は新学期から行くことになった。放課後に行くボランティア学習支援教室との時間調整もできてDは安堵の表情を見せた。</p> <p>【Xからの相談② 書類について】(3月)学校から「学校徴収金、副教材費、学年費」の通知が届いた。わが家に関係のある書類か。(4月)学校から「家庭環境票」「緊急時の引き取り票」が届いたが、記入方法が分からない。連絡票に書かれていた担任のコメントの意味が分からない。</p> <p>【対応②】(3月)通知文に関し学校に確認すると、DとXに関係する書類と関係ない書類があった。(4月)提出すべき書類に関しては内容の説明をして、記入するサポートをした。</p> <p>【Xからの相談③ 式典について】(4月上旬)Dは2年生になる。始業式は親も行くべきか。行く時は着物を着ないといけないのか。体育館でおこなわれるようだが、Dは体操服で参加していいのか。</p> <p>【対応③】学校に確認し、親は都合がつけば出席すればよいこと、着物を着ていく必要もないと伝えた。生徒は体操服ではなく標準服で出席することを伝えた。</p>

	<p>【DとXからの相談④ 部活動について】（4月中旬）Dは部活動に参加したほうがよいか。</p> <p>【対応④】 部活動はDが学校に慣れて友だちを作るチャンスでもあるから、やりたい部活があれば是非参加したほうがよいと伝えた。</p> <p>【Xからの相談⑤ 衣替えについて】（6月上旬）学校から「衣替えのお知らせ」が届いた。夏服をまだ作っていない。何を着たらよいか。</p> <p>【対応⑤】 学校に確認し、夏服ができるまで体操着で通学可であること、但し朝会・式の際は標準服着用であることを伝えた。</p> <p>【Xからの相談⑥】（7月上旬）Dが勉強に集中せず心配だ。</p> <p>【対応⑥】 母が心配する気持ちに寄り添った上で、本人が少しでも頑張ったら褒めてあげること、親があきらめないことが重要だとアドバイスした。</p> <hr/> <p>【経過】 来日当初、相談窓口の机に突っ伏して「何もわからない。勉強は嫌い。」と言っていたDだが、その後3年生になり「夏に友だちと一緒に韓国語を勉強したい」と自ら相談に来た。韓国語教室を調べてDに伝えた。その時、相談窓口で英検の過去問を解き、かなりできたため「英検を受けてみたい」という気持ちになり受検。英検3級に合格し「次は日本語能力試験を受けてみたい」と、その受検方法の相談に来た。</p>
--	---

### 【本ケースからの学びと課題・展望】

#### ■日本の学校生活について次々と出て来る分からないこと

外国人保護者にとっては、日本の学校生活について分からないことが次々に出てくる。保護者や生徒の不安がふくれあがる前に、ひとつひとつ解決する必要がある。

本件でも、学校に関するさまざまな不明点と不安が解消されて初めて、相談内容が子どもの勉強に関することになった。学習面で日本の子どもや保護者と同じスタートラインに立つまでには、越えなければならないハードルがいくつもあるのが現実である。

#### ■学校、保護者、生徒が互いに確認できる場の設定

本件では初回の相談時に、学校関係者、保護者、生徒が一堂に集まることのできたため、それぞれが疑問に思っていること、言いたいことを、その場で確認しながら双方に伝えることができた。学校とのやりとりを通じて学校側の熱心な姿勢が伝わり、保護者も生徒も安心したようだ。常にこのような機会をつくるのは困難かもしれないが、互いに誤解が生じる前に相互理解の場を設けることで、未然に問題の芽を摘むことができる。

#### ■文面だけで判断せず、発行元に確認することの重要性

日本語が分からないと、子どもが持ち帰る通知文が、大事なものか、自分に関係あるか、急ぐものか、そうでないか、保護者は区別できない。本件の保護者は、何か分からないことがあるとすぐ当窓口を持参して尋ねて来たので、不明な点はその場で学校に確認し説明することができた。通知文の内容について学校側に尋ねてみると、その文面に記載しきれていない補足情報等もあった。

相談を受ける側は通知文の文面だけで判断せず、不明な点があれば、まず通知文の発行元に確認し、学校側が何を伝えたいのか、その内容を把握し相談者に伝えることが肝要である。

- ※5 初期適応指導…児童生徒の母語ができるサポーターによる学校生活適応支援（通訳）。
- ※6 日本語教室…外国につながる方に日本語を教える教室。地域のボランティア、NPO などが運営しているほか、児童生徒を対象としている教室は教育委員会が関わっているところもある。
- ※7 ボランティア学習支援教室…外国につながる児童生徒向けに日本語指導や教科補習、受検指導等を行っている教室。地域のボランティアやNPO などが運営している。

#### 相談サポーターの声④ 外国につながる保護者として学校に期待すること

- ・手紙を全訳する必要はないが、ふりがなをつけてほしい。手紙をもらってから相談できる窓口を紹介してほしい。事前に可能であれば協力したい。
- ・もっとすっきりした簡単な情報、コンパクトではっきりした直接的な情報を出してほしい。項目に使われている用語などは難しく余計に分からなくなってしまう。
- ・学校の中での国際化、身近な子を取り上げて理解できるようなクラス作り、環境づくりをしてほしい。先生方にも児童生徒の国のことを勉強してもらいたい。
- ・学校では子どもがありのままにいられるようにアイデンティティのフォローやサポートが大切。自分のルーツに誇りを持てるように先生方に工夫してもらいたい。
- ・日本の学校の常識は他の国の常識とは限らない。「お弁当」と聞き、お弁当箱のみを持ってきた話や「飲み物」と言えば日本では暗黙の了解でお茶か水を持ってくるという意識があるが、コーラを持って行った話など、意識の違いがある。
- ・「日本語が分かる」＝「日本の教育制度が分かる」ではない。分かっている気がしていたと言われても分かっているわけではない。
- ・日本のお子さんと同じように、外国につながる子たちもすべて義務教育のなかに該当するとよいと思う。あきらめず子どものことを見つづけてほしい
- ・外国と日本の考え方の違いがあることを理解し、お互いが分かるためにきちんと説明、伝えることが大切だと思う。コミュニケーションは大事なだけでなく、分かっていると思うことも伝えるべき。通訳は言葉を通訳するだけではない。相手の考え方や文化を分かって通訳することが大切。

事例⑤【日本語指導協力者や学校教諭、支援者が協力し高校進学につながったケースについて】

相談者	学校教諭(担任、生徒指導担当等)、日本語指導協力者 ボランティア学習支援教室関係者、保護者「W」
相談対象者	生徒「E」(中学2年生)、W本人
対応言語	スペイン語、日本語
相談形態	来訪6回、電話1回 中学1年(2学期)～中学卒業までの2年強
<b>■相談内容</b> <b>■窓口での対応</b> <b>■その後の経過</b>	<p><b>【相談】</b>(学校教諭と日本語指導協力者が、EとWと一緒に来訪) 生徒Eは片親Wに育てられている。Wは仕事で帰りが遅く、兄弟姉妹の面倒をEがみている。これまではボランティア学習支援教室に通っていても、すぐにやめてしまうことが多かった。私たちが学校の授業時間内で日本語指導や教科指導をするだけではEには充分と言えない。放課後時間を過ごせるところ、かつ丁寧な日本語を勉強できるところ、受検に向けて勉強できるところがないか。</p> <p><b>【対応】</b>Eの居住地区の学習支援教室を紹介すると同時に、Wが努力する姿勢を見せることが大切だと伝え、Wにも日本語教室を紹介した。</p> <p>日本語指導協力者が学習支援教室に連絡を取り、見学に行く日が決まった。日本語指導協力者も学校の先生も一緒に学習支援教室を見学し、Eはその教室に通うようになった。日本語指導協力者と学校関係者が一緒にボランティア学習教室に行ったことにより、顔の見える関係となり、担当ボランティアとEの学習状況等についての情報共有を行うことができるようになった。</p> <hr/> <p><b>【経過】</b>その後、学校の先生が「Eの成績が上がった」と言っていたという話を支援者から聞いた。ボランティア学習支援教室、学校、支援者で協力し密に連絡を取り合い、生徒を受け入れ見守りながら対応していくなかで、生徒は志望する高校に進学することができた。</p> <p>Wも紹介した日本語教室に通い始め、仕事をしながら日本語を勉強している。</p>

【本ケースからの学びと課題・展望】

■学校教員・日本語指導協力者・地域ボランティアの連携

1. 学校、地域(放課後)に子どもの居場所があることは大切である。
2. 学校内だけでなく、地域のボランティア学習支援教室等と連携し、役割分担を明確にしながら、子どもたちを見守り育てていくことは重要である。

事例⑥【保護者が日本の受検制度を理解することの難しさについて】

相談者	保護者「V」
相談対象者	子「F」(中学3年生)
対応言語	ポルトガル語、日本語
相談形態	電話8回
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談①】娘Fは推薦枠で私立高のスポーツ科に入れそうだったが、その後の進学が心配なので普通科で部活動を続けさせたいと思う。実はスポーツ科と普通科との違いがよくわからないので教えてほしい。</p> <p>【対応①】希望していた学校のホームページを見て、普通科の中にスポーツコース、進学コース、その他のコースがあること、それぞれ過去の受検者の内申点に差があることを説明した。</p> <p>【相談②】推薦と専願、併願の意味がよく分からない。専願とはどういう意味か。経済的な問題はない。そのために貯金してきた。</p> <p>【対応②】Vに、推薦、専願、併願等、受検制度の仕組みを伝えた。また、私立学校に通うことが金銭的に問題ないのかを確認した。</p> <p>【相談③】Fは推薦枠で受ける事ができて私立高校に受かった。でも、学校の制服の値段を聞いて驚いた。払えない。実は公的支援を受けている。役所の担当者が学費を出してくれると言っていたのに「だめだ」と言う。どうしたらよいか。</p> <p>【対応③】役所の担当者に問い合わせたところ、役所が出せると言った学費は公立高校の授業料と補助金のことで、それ以上に必要な私立学校の経費は貸し付けの形で出せると伝えていたことが分かり、その旨をVに伝えた。併せて、奨学金の情報を提供した。</p> <p>【相談④】Fとも話し、改めて公立高校を受検したいと担任に伝えた。でも、担任が「推薦で受かったのに学校を変えるのか？」ときつい言い方をする。以前も迷惑そうに対応されたことがある。私が外国人だからだと思う。どうしたらよいか。</p> <p>【対応④】推薦は受かったら必ず入学するという前提でそれを守らないといけないこと、志願時において、私立高等学校に合格している人(入学手続きをしていない場合も含む)は志願できないことを今一度説明した。</p> <p>また、受検期の中学3年の担任は生徒の進路のことでとても忙しいことなど、学校側の事情も伝えた。Vから「迷惑をかけて申し訳ない」という意思を担任の先生に伝えてから、改めて相談してはどうかと伝えた。</p> <hr/> <p>【経過】(Vより)先生に迷惑をかけたことを謝った。関係は良くなった。Fは結局推薦で受かった私立高校に通わせることにした。奨学金制度や高校生活などについてまた相談に来たい。</p>

## 【本ケースからの学びと課題・展望】

### ■受検の制度や仕組みの周知

生活するための日本語にほとんど支障の無い保護者にとっても、高校受検の仕組みや専門用語を理解することの難しさが浮き彫りになったケースである。

- ・日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイダンス (ME-net 主催)<sup>※8</sup>に参加する
- ・学校や教育委員会が行う外国につながる生徒のための受検説明会に参加する
- ・外国人教育相談窓口に相談する

など、日本語以外で受検情報を得られる機会・方法はあるが、その周知は未だ不十分である。また、事の重大さを理解せずに、制度を知っていても直前まで活用しない、あるいは、時機を逸してしまう保護者・生徒をいかに啓発するかは常に大きな課題である。

### ■受検に向けての面談における通訳の大切さ

1. 相談者に面談の際の通訳について聞いたところ初回はいたが内容がよく分からなかったので次回から必要ないと断ったとのことだった。高校進学の入試制度のように、とても複雑な場合は特に分からないと言ってきちんと説明してもらい、必要な場合は時間延長のお願いをするなど意思表示しないとすべて理解していると思われる。下に兄弟がいるということだったので通訳制度等は利用してしっかり理解することを心がけるよう話した。(専願、併願の違いを理解していない等がないように)
2. 多くの先生方や支援者は既にそのようにされていると思われるが、特に複雑な高校進学のための入試制度等に関しては通訳者も分野によってよく理解していることとそうでないことがあると思われるので必要に応じて面談前に、あらかじめ通訳者と打ち合わせを密にする等配慮していただくと情報がより正確に伝わる。

※8 日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイダンス…NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net) という「外国につながる子どもたち」の教育を支援している NPO 法人が神奈川県教育委員会と協働で毎年秋に県内各地で通訳をつけて開催している高校進学ガイダンス。また同 NPO 法人は神奈川県教育委員会と協働で多言語 (10 言語翻訳) の公立高校入学のためのガイドブックも作成している。

事例⑦【子どもの外国人学校から日本の高校への転校を考えていたケースについて】

相談者	保護者「U」
相談対象者	子「G」(外国人学校高等部1年生、日本国籍、中国語は得意。日本語はあまりできない)
対応言語	中国語
相談形態	電話10回、来訪1回 高校1年の4月～翌々年11月
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談①】(4月上旬)今年4月に外国人学校高等部に進級した。私はこのままでよいと思っているが、日本人の夫が「このままでは日本語が上達しない。日本人だから日本の高校にいれるべきだ」と言う。母国にいる自分の親戚は「転校させないほうがよい」と言う。その板挟みになっている。これから県内の公立高校、私立高校に転校させるにはどうしたらよいか知りたい。</p> <p>【対応①】神奈川県教育委員会と県の学事振興課に確認の上、以下2点を伝えた。 (1)神奈川県内においては教育課程が異なるため、外国人学校高等部から公立高等学校への転編入学は基本的にできない。日本の中学3年相当にあたる9年の課程を修了している人は入試を経て入ることは可能であること。 (2)私立高への転校は各校判断であるので、個別に聞く必要があること。</p> <p>上記を伝えた上で、日本の高校に入りさえすれば日本語ができるようになるわけではないこと。中国語ができることは大きな強味であるから、今の在籍校に通いながら日本語学校や日本語教室で勉強する方法も考えてはどうかと提案した。</p> <p>【相談②】(4月中旬)自分としてはα高校にいれたいと思うようになった。その話を在籍校にしたら、「学費さえ払えば、α高校を受検したあと、もしも不合格だったら戻ってきてもよい」と言われた。友人から勧められたβ高校も気になっている。現在在籍している高等部の大学進学実績や受検時の条件を知りたい。</p> <p>【対応②】在籍校卒業生の主な進学先を同校ホームページで確認して伝えると、Uは「そのような大学に行ける卒業生がいたとは知らなかった」と言っていた。親がいろいろ調べるのはいいが、進学や受検時の条件については、G本人が進路指導担当に尋ねたり、自ら調べたりする姿勢が大事だとUに助言した。</p> <hr/> <p>【経過】その後も保護者からの相談(報告)は断続的に続いた。いくつかの公立高校への入学、私立高校への転編入学を検討したが、最終的にGは在籍する外国人学校に引き続き通うことを決めた。</p> <p>(翌々年11月)Gは高等部3年生になった。学校の紹介により、日本語と中国語ができる人材を探していた会社の正社員に就職が決まった。</p>

## 【本ケースからの学びと課題・展望】

### ■子どもの気持ちのありか

保護者の情報の入手先、相談する相手は様々である。本ケースは、子の母親が、夫、親戚、友人、塾の先生から何か言われる度に迷い、迷った末に、分からないまま行動し、そこで望む結果が得られないと落胆し相談してくるパターンだった。いろいろ動いた上で板挟みになり、行き詰まると当窓口へ連絡してきた。「どうしたらよいか」ではなく、自分でやってみたことがうまくいかないことへの不満、おさまらない怒りを聞いてほしいという相談が多かった。

気がかりだったのは、親からの話の中で子ども自身の意思や考えが見えなかったことだ。その点を尋ねると、「これまで言うことを聞く子だった。子どもの意思確認は二の次でよい」との思いがあったようだ。当窓口からは、折りに触れ「できるだけ子どもの気持ちに目を向けるように」と伝えた。

### ■相談者の思いを話せる場としての相談窓口

子は成長し親の手を離れていき、母からの相談は、次第に「自分が家族に必要とされているか分からない」という悩みに変わった。当窓口からは、これまでの母の努力があったからこそその成長であることを改めて伝え、これからは自分がやりたかったことに目を転じて社会に出て活動することも提案した。

相談窓口で求められる対応は「助言すること」ばかりではない。それ以前に「傾聴すること」で、相談者の本当の悩みを相談者自身が知り、解決への一步を自ら踏み出すきっかけになり得ることを再認識した事例であった。

## 相談サポーターの声⑤ 進学に関わる相談を受けて

- ・無事進学した報告を受けて、うまくやっている元気な姿を見たときとてもうれしく思う。しかし、高校に入ったにも関わらず、やめてしまったときは非常に残念。
- ・親とも意思疎通ができなかった子どもが相談に来て、初めて自分の意志で進路を選択し、決める場に立ち会えたことがある。その子は会うたびに成長を感じる。そんな姿を見るととてもうれしい。関わっている大人たちがどれだけその子を思っているかを伝えたら、子どもたちは見ているうちにどんどん変わっていく。みるみる成長している姿を見るとやりがいを感じる。ただし、誰か支援者に出会う、どこか窓口につながるなど、何かのきっかけとなることがないと状況が変わっていかない人がいることも現実としてある。

## 相談サポーターの声⑥ すれ違う親と子の思い

- ・親が相談に来て、子どものために情報提供したが、子どもが親に反感を持っていて、逆効果になってしまったことがある。親に情報提供して何とかなるとこちらは思っている、本人の置かれている状況をきちんと把握できていなかった。本人の気持ちを進学に向けてあげることができなかったときは、その親子にどう関わればよいか悩んだ。

事例⑧【親の在留資格取得が子どもの高校進学につながったケースについて】

相談者	保護者「T」
相談対象者	子「H」(16歳、日本国籍、母国で中学卒業、高校進学希望)、T本人
対応言語	スペイン語、日本語
相談形態	来訪10回、電話1回 相談期間6ヶ月
<p>■相談内容</p> <p>■窓口での対応</p> <p>■その後の経過</p>	<p>【相談①】娘Hは日本国籍。母国で中学3年を卒業した。成績はとても良かった。Hが日本で勉強したいと希望したので来日した。日本人父が3年前に死亡した。親子でいとこの家に住まわせてもらっている。高校に行くためにはどうしたらよいか。</p> <p>【対応①】神奈川県「公立高校入学のためのガイドブック<sup>※9</sup>」を渡し、受検について説明した。また、「日本語を母語としない人たちのための高校進学ガイドダンス」を案内した。さらに、受検準備のためにボランティア学習支援教室を案内し面接の予約をした。</p> <p>【相談②】私は入国管理局(以下、入管)で短期の在留許可を延長してもらったが、その後の申請のためにも働くことが必要。昔日本に住んでいたことがあるので日本語は少しできる。Hはフリースクール<sup>※10</sup>に通い始めた。Hは1人でも日本に残って勉強したいという強い意志があるが、いここに迷惑をかけ続けられない。私の在留資格のことがはっきりしていないので、Hは勉強にあまり身が入っていない様子。私が仕事をして日本で生活できるようになりたい。</p> <p>【対応②】Tの在留許可については、行政書士相談を案内し予約した。就労に関しては、資格が無くてもできる介護施設の掃除や調理等の仕事を紹介してくれる相談所を案内した。また、介護職員初任者研修とその前段階の就労のための日本語教室について案内し面接の予約をした。</p> <p>【相談③】明日入管に行くことになっていたが、荒天で行けそうにない。電話をかけてその旨を伝えてほしい。</p> <p>【対応③】入管に電話し、担当者にTは「就労のための日本語を勉強していること、その後介護の勉強をして働きたいと考えていること」を伝えた。</p> <p>【相談④】無事に在留資格の変更と更新ができた。就労のための日本語教室を終えたら、介護職員初任者研修を受けて就職する予定だ。Hも高校進学に向けて一生懸命勉強している。現在、役所に相談して一時的に生活保護を受けている。Hが通っているフリースクールの月謝を分割にできないか聞いてほしい。</p> <p>【対応⑤】その旨フリースクールに話すと、相談に乗ってもらえる事になった。</p> <p>【相談⑥】私は介護の仕事に就くことができた。Hも全日制の公立高校受検に合格した。とても感謝している。入学の手続きについて教えてほしい。</p> <p>【対応⑥】手続書類の記入方法と注意事項を伝え、期日までに学校に届けるよう説明した。</p>

## 【本ケースからの学びと課題・展望】

### ■親が問題を正しく認識する力

相談者の問題意識が高く、来日後すぐ窓口相談に来られた。親の在留資格と子の高校進学という2つの大きな課題があったが、相談者が全ての事柄に対して迅速に行動できると、問題解決につながりやすいことを再認識できたケースである。

※9 公立高校入学のためのガイドブック…事例⑥ ※8 参照

※10 フリースクール…本報告書で使うフリースクールは、外国につながる子どもたちで中卒後来日した生徒などで高校進学を希望する人向けの、日本語や教科学習の場、またその子どもたちの居場所のことを指している。

### 相談サポーターの声⑦ 在留資格に関わる相談を受けて

- ・ビザの問題が解決して、仕事も決まり、高校に進学できた。相談してくれた人の問題が解決して一緒に喜べたときが本当にうれしかった。
- ・学校に入りたかったけれどビザの関係があって入れなかった子がいた。窓口として何もできず、助けていけど助けられないときがよかった。

事例⑨【日本語学校に通いながら高校進学を目指し合格した生徒のケースについて】

相談者	高校進学を希望する生徒「I」
相談対象者	I 本人(中国で中学を卒業)
対応言語	中国語、日本語
相談形態	来訪 8 回 相談期間 12 月～翌年 2 月
<b>■相談内容</b> <b>■窓口での対応</b> <b>■その後の経過</b>	<p><b>【相談①】</b> (12 月初旬) 友人の紹介で来訪した。日本語学校に通っている。日本語学校で高校進学のことが分かると思ったが何も分からない。高校に行きたいがどうすればいいか。</p> <p><b>【対応①】</b> I に神奈川県の入試制度について説明し、高校進学ガイドブックを渡した。受検の準備を始めるには出遅れたが、もし今回失敗しても受検を体験することが大切と伝えた。その他、フリースクールやボランティア学習支援教室を紹介した。</p> <p><b>【相談②】</b> 過去にどのような問題が出たのか知りたい。問題の分からないところがあったら教えてほしい。</p> <p><b>【対応②】</b> 情報フォーラムに所蔵しているルビ付き過去問題を紹介した。I は、しばらく問題を解いていたのち、分からないところを質問に来たため、その内容を答えた。数学の用語等については、情報フォーラムに所蔵している中学校の教科書、時には小学校の教科書を用いて内容を一緒に確認した。</p> <hr/> <p><b>【経過】</b> その後、I は午前中は日本語学校に通い、午後はフリースクールやボランティア学習支援教室に通い始めた。フリースクールや学習支援教室がない日にはあーすぷらざに来て毎日のように勉強していた。情報フォーラムにある中国語の資料を参考に入試問題を解いたり、過去問を解いたりしていた。教育相談の中国語スタッフに問題の内容を質問しに来ることもあった。問題文中の漢字の読み方を聞きに来たこともある。受検が近づいてくると、面接練習をしてほしいという申し出があり、スタッフの空き時間に面接練習も行った。</p> <p>2 月末、在県外国人特別募集(在県枠) ※11 のある高校に合格したという知らせが届いた。</p>

【本ケースからの学びと課題・展望】

■高校受検と日本語学習

1. まずは日本語学習をしてからという保護者の考えはあるが、高校進学を目指す場合、日本語の学習と同時に進学に向けての準備が必要である。
2. 進学を希望する来日したての保護者・生徒たちへの情報提供。対象者が情報へアクセスするために、来日後必ず行く必要のある役所の窓口等で、高校進学や教育相談窓口の情報などを確実に提供できるようにさらに工夫する必要がある。

※11 在県外国人特別募集（在県枠）…入国後の在留期間が小学校入学時点から中学3年2月1日時点までで通算3年以内の生徒で、外国籍を持っている人、または日本国籍を取得して3年以内の人が受検できる特別募集。神奈川県内の公立高校では全日制高校9校と定時制高校1校で実施されている。

### 相談サポーターの声⑧ 相談を受けていて、悲しかったり、悩んだりしたこと

- ・連絡が途切れてつながらなくなってしまう人のその後が気になる。継続して支援していく難しさを感じる。
- ・学校でいじめられている子の対応をしたが、窓口を通して何もできなかったとき。
- ・自分の力不足を感じたとき。自分の力ではどうにもならず、相談に乗れなかったときにむなしさや悲しさを感じる。
- ・「この答えがこれでいいのか？あなたはどちらがいいと思う？」など学校選択や呼び寄せのタイミング等を聞かれたとき。
- ・相談に来てもうまくいかなかったとき。日本語が分からなくて誤解がある場合、そのあとどうなっているか知るすべがない。窓口としてできることは限られているので、気になっても心配でも、これ以上のことができず見ていることしかできないこともある。”
- ・通訳と情報提供までしかできない現状。経済的なことまでは何もできない。もう少し早く相談に来てくれているならば、何か別のいい道があったかもしれないと思ったことがあり、それが残念だと思った。

事例⑩【高校入学後、通信制<sup>※12</sup>サポート高校<sup>※13</sup>の学費納入が困難であると気づいたケースについて】

相談者	支援者、保護者「S」
相談対象者	子「J」（通信制サポート高校1年生）
対応言語	タガログ語、日本語
相談形態	電子メール1回、電話2回、来訪2回
<b>■相談内容</b> <b>■窓口での対応</b> <b>■その後の経過</b>	<p>【相談①】（支援者より）通信制サポート高校α校に入学した生徒の保護者Sから「中学校でα校を卒業すれば高卒資格が取れると聞いて入学させたが、学費が払えない。高1が終わったら別の高校に行かせたいがどうしたらよいか。」と相談を受けた。Sは通信制高校について理解していない。教育相談に行くよう勧めるので公立高校への転校手続きと奨学金について説明してほしい。</p> <p>【対応①】相談日、相談時間、アクセス方法を支援者からSに伝えてもらった。</p> <p>【相談②】（保護者Sより）子Jは県立高校への進学を希望したが合格できず、中学校で勧められたα校に入学した。昨年、夫婦間の問題で落ち着かず、進路選択はJ任せで私は何も助けてやれなかったので受検に失敗したのだと思う。α校へは入学時に50万円払ったので3年分の学費を賄えると思っていたが、6月に授業料納入通知が届いて驚いた。お金がない。Jは制服も買ったし、友だちもできたので卒業までα校に通いたいと言うがどうしたらよいか。</p> <p>【対応②】（1）通信制高校から公立高校への転校について神奈川県教育委員会転編入学情報センター<sup>※14</sup>に問い合わせた情報をSに伝えた。 （2）α校と連絡を取り、就学支援金の申請をサポートした。</p> <p>-----</p> <p>【経過】貸付を受けてα校を卒業できても、大学や専門学校への進学時に再び学資が必要になることを考え、長期的視点からJと共に考えたかったが、当座の資金繰りの目途が付き安心したのか、連絡は途絶えた。</p>

【本ケースからの学びと課題、展望】

■進路指導に際してお願いしたいこと～中学校の先生方へ～

外国につながる生徒や保護者は、日本人であれば当然身につけているはずの入試に関する予備知識や志望校選択に必要な学校情報を十分得られぬまま、生徒が友人から聞いた話や保護者が耳にした不確かな噂話を判断材料に志望校を決定してしまうことがある。私立高校に入学後、卒業までに必要な学費の総額に気づく保護者や、小中学校のように転校ができると安易に考えている生徒、日本語習得途上の学習者が必要とする支援が受けられなかったために学業不振に陥り、中途退学に至るケースもある。志望校決定に際しては、日常生活からうかがえる家庭の経済力や生徒の日本語習得状況、学習達成状況を見据え、それぞれの教育的ニーズにあった支援体制が構築された高校への進路指導をお願いしたい。

## ■相談窓口の課題

相談窓口では一方的な情報提供にとどまらず、相談者の心のうちにある固定観念（母国で培った価値観、定時制への先入観等）を把握し、進路選択の鍵となる重要な情報が正しく理解できているか確認しながら、相談対応をすすめる姿勢が求められる。同時に高校、大学進学に備え、子どもが幼い時から長期的展望を持って教育資金を準備することで進路選択の幅が広がることも、機会を捉え、伝えていかなければならない。

### ※12 高校の課程…

- ①全日制：午前8時40分頃から午後3時30分頃まで毎日授業を受ける課程。卒業までは3年間。
- ②定時制：特定の区切られた時間帯（午前、午後、夜間）で授業を受ける課程。多くの学校は夜間の時間帯。昼間の時間帯の学校もある。自分の課程以外の時間帯にも授業を受けられる高校もある。卒業まで基本4年間。学校によって3年で卒業できる制度もある。
- ③通信制：教科書・学習書をもとに、主に自宅で作成したレポートを提出し、試験に合格することで単位を修得する課程。基本的に毎日学校に行く必要はないが、月に2～3回程度、登校して面接指導（スクーリング）を受ける必要がある。スクーリングの実施方法等は学校によってさまざまである。

※13 サポート高校…高等学校通信教育を受けている者（高等学校における「通信制の課程」に在籍している者、または、中等教育学校の後期課程における「通信制の課程」に在籍している者）や高等学校卒業程度認定試験合格を目指す人を対象とし、レポートの提出やスクーリング（面接）および定期試験による単位取得を容易にするために、通信制のカリキュラムに沿った学習面のサポートや生活面・心理面のサポートを行う民間の教育機関。サポート校は、通例、学校教育法を含む法令がまったく適用されない無認可校であるが、学校教育法の第124条で規定される専修学校、学校教育法の第134条で規定される各種学校として設置されている場合もある。学校法人（一条校の設置を目的とする法人）や準学校法人（専修学校・各種学校の設置を目的とする法人）が設置しているサポート校もある。学費等については通信制高校、サポート校のそれぞれの学費等が必要。

※14 転編入学情報センター…神奈川県内の公立高等学校の入学、転入学、編入学に関する相談が可能。転編入学については、学校の課程（全日制、定時制、通信制）、在籍期間、取得した単位などにより状況はさまざまである。転編入学に関わる個々のケースについては、転編入学情報センター

（045-210-8234/8235）に問い合わせ、確認する必要がある。なお、日本語での問い合わせが難しい場合は、あーすぷらざ外国人教育相談窓口でも本ケースのようにサポートしている。

事例⑩【保護者が戦略的に情報収集し息子の自己実現を支えたケースについて】

相談者	保護者、子「K」（相談開始時、高校2年生）
相談対象者	K本人（8歳で両親と共に来日。公立中学・高校を経て、国立大理系学部に入學。同大卒業後、最先端の研究を行っている国立大研究科修士課程に進学した）
対応言語	ポルトガル語
相談形態	来訪8回、電話7回 高校2年生（秋）～大学4年生（秋）の5年間
<b>■相談内容</b> <b>■窓口での対応</b> <b>■その後の経過</b>	<p>【相談①】（保護者より）大学進学について、日本の大学入試制度と志望校選択のための留意点が知りたい。</p> <p>【対応①】 国公立・私立大の入試制度、入試日程、志望校決定のための予備校模試の活用法、大学案内の見方、学費、奨学金に関する情報を相談者に伝え、奨学金申請手続きを手伝った。</p> <p>【相談②】（保護者より）大学院進学について、子Kの専攻分野で最先端の研究が行われている大学院がどこか知りたい。大学院生が利用できる奨学金の情報がほしい。</p> <p>【対応②】 専攻領域の学会ホームページを紹介し、研究発表会への参加や紀要に目を通し、各大学の研究内容の詳細や研究者（指導教官）に関する情報を得るよう勧めた。奨学金情報（大学、大学院における学内奨学金、授業料等減免制度、徴収猶予制度等）について説明した。</p> <p>【相談③】（K本人、保護者より）卒論執筆のために必要な参考文献の探し方を知りたい。</p> <p>【対応③】 いくつかの論文検索サイト、理系論文の書き方に関するサイトを紹介した。また、大学院選択についてスタッフ（理系大学院出身）の助言も伝えた。</p> <hr/> <p>【経過】 Kは社会福祉法人の奨学金を獲得し、第一希望の大学院への合格を果たし、希望に満ちた研究生生活をスタートさせた。</p>

【本ケースからの学びと課題、展望】

■保護者のサポートと子どもの進路

来日後直面する生活環境や学校環境の劇的な変化や第二言語で学ぶ困難さを乗り越えて、生徒が自らの自己実現を果たした背景には両親の献身的かつ戦略的なサポートがあった。高校から大学、大学院へと上級学校への進学に先立ち、保護者は複数の情報を集め、進路選択の判断材料とした。

相談サポーターの声⑨ 大学進学に関わる相談を受けて…

・大学進学に際し、学力はあるが日本語力によって、力のある子どものための学校が見つからない。英語で学べる大学の数は限られている。何かこちらからしてあげたいけれど、答えを出せないことがあった。結局その子は母国にもどってしまった。大学時期への子へのサポートは進学の可能性、就職の可能性など、さまざま選択肢があり難しい。

事例⑫【大学進学希望生徒のための奨学金制度について】

相談者	支援者「R」
相談対象者	大学進学希望「L」
対応言語	日本語
相談形態	電子メール
<b>■相談内容</b> <b>■窓口での対応</b> <b>■その後の経過</b>	<p><b>【相談】</b> 来年度、大学進学を希望する外国につながる生徒Lの相談に乗っている。奨学金についてインターネットで調べたら大体のことは掴めたが、具体的な例、参考になる制度があれば知りたい。</p> <p><b>【対応】</b> 奨学金制度について以下4点をRに伝えた。</p> <p>(1) 独立行政法人日本学生支援機構 JASSO の奨学金は在籍校を通じて申し込む。締切時期等は生徒Lから担任に尋ねるようにすること。</p> <p>(2) 日本政策金融公庫の教育ローン・教育一般貸付の融資額、対象となる費用、世帯年収上限、返済方法、利子等はURLで確認できる。</p> <p>(3) 世帯収入が低い場合、生活福祉資金の教育支援資金(全国社会福祉協議会)がある。「教育支援資金」は高等学校、大学又は高等専門学校に就学するのに必要な経費(例：大学 6.5 万円/月以内)。「就学支度費」は高等学校、大学又は高等専門学校への入学に際し必要な経費(50 万円以内)。申請希望は、住んでいる市区町村社会福祉協議会へ。</p> <p>(4) 入学した生徒のために、独自の奨学金制度を設ける大学もある。手続きは入学後となる。</p> <hr/> <p><b>【経過】</b> 後日、Rより(1)～(4)の情報を再度詳しくリサーチしたこと、その上で、Lと話し合いながら奨学金等の手続きを進めているとの報告があった。</p>

【本ケースからの学びと課題、展望】

■支援者への支援

当相談窓口には、県内各地の支援者からも相談が寄せられ「どう答えたらよいか」とアドバイスを求められることがある。彼らはこちらが挙げた情報や具体例をヒントにして、自らリサーチし、理解を深め、相談対応に生かしていく。当窓口にとっても、彼らからもたらされる経過報告から、新たな情報を入手できる。

相談したい人にとっては、身近な場所で信頼できる相手から情報を得られるのが一番よい。これからも支援者からの相談に引き続き対応していきたい。

■情報の所在の把握と活用

有用な情報を抱え込んだり、古い情報に固執したりすると、新しい情報は入ってこない。相談窓口とは、相談対応に必要な情報資料の所在を常に把握し、どのようなキーワードを手がかりに調べることができるかを、確実に伝えられる体制作りが求められる。

## 4. 相談ケース会議について

「相談ケース会議」を実施しています(月1回)。相談対応の向上、情報の更新、関係機関との連携強化を目的としています。NPO法人多文化共生教育ネットワークかながわ(ME-Net)と公益財団法人かながわ国際交流財団(KIF)からアドバイザーを招き、相談対応の検証や情報交換を行っています。

### 【実施内容(2013年度)】

実施月	テーマ(抜粋)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制を3年で卒業できそうなスペイン語圏生徒の進路について</li> <li>・外国につながる子の私立高校受検について</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語指導が必要でかつ夜間中学に通う必要のある生徒への支援について</li> <li>・新たな高校受検制度の動向と結果について</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポート校に通う生徒の保護者からの学費に関わる相談について</li> <li>・母国では成績がよかった子が、日本語の壁を乗り越えていくための支援について</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工業高校へ進学後、在学中のフォローや進路について</li> <li>・生徒の在留資格について</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国から呼び寄せた子どもの進学について</li> <li>・理科系の高校教科語彙集の情報について</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校進学を考えている南米系の中学生徒の進学先について</li> <li>・中国から呼び寄せた学齢超過の子どもの進路について</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校へ行きたい子どもと大学に行かせたい親のケースについて</li> <li>・全日制と定時制高校に進学するときの成績の目安について</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間中学校の現状について</li> <li>・保護者に長期的な視点をもって子どもの教育に携わってもらうための場の設定について</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スペイン語圏につながる子どものための母語教室について</li> <li>・高校での進学指導の現状について</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国から日本の小中学校への転編入について</li> <li>・自閉症の子どもへのサポートについて</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在県枠は使えない外国につながる生徒の進学先について</li> <li>・イスラム圏の子どもが学校へ入る際の対応について</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制高校に在籍している生徒のための居場所について</li> <li>・高等学校等就学支援金について</li> </ul>

等

「多文化共生社会のヒントは？」

NPO 法人 多文化共生教育ネットワークかながわ (ME-net)

教育相談スタッフ

高橋徹

先日、ある仲間から「多文化共生」という言葉を、いつ頃から使い出したのか？という問いかけをうけました。ある報告によれば、1993年1月に神奈川県で開催された「開発教育国際フォーラム」が最初の記録らしいとのこと。私たちが公に使い始めたのは、NPO法人となる以前、1998年のこと。「日本語を母語としない人達のための高校進学ガイダンス」の実行委員会の団体名称「多文化共生教育ネットワークかながわ」を使い出したのがはじめです。以来「高校進学ガイダンス」と「教育相談」を、私たちの活動の中核となる取り組みとしてきました。しかしながら、海外から移住してきた子どもたちとその家族には、様々な問題が立ちふさがっています。本報告書を見れば、彼・彼女らの抱える問題を知ることができるでしょう。文化や制度の違いはさることながら、日本社会の排外的な空気の中で、現状を変えることは当面できそうもなく、課題に向き合う私たちME-netの取り組みは、まだまだ微々たるものにとどまっています。そうした中で、県内で相談活動に取り組むあーすぶらぎや、KIFとの経験の交流は、今以上に今後もその重要性を失うことはなさそうです。

さて、ME-netは、あーすぶらぎ外国人教育相談の月一回のケース会議に、数名のスタッフがローテーションを組んで、毎月1名が参加しました。ME-netは、教員出身者が多いので、それだけ学校教育関係の情報提供を中心にお手伝いしてきました。しかし相談活動には、多面的な経験や、人生観が欠かせません。あーすぶらぎの相談スタッフは、妥協することなく一つ一つの相談に応えようとしている姿勢を保っておられることに感心させられます。

「最適な答」は、はじめからあるものではなく、相談活動の中で発見されたり、創られたりします。同じ相談を受けても、相談を受ける者によって、出てくる回答は違ってきます。さらに、当事者とのやりとりの中で、「最適な答」を探していく作業には相談スタッフの人生観に裏付けされた「気持ち」がものをいいます。相談場面の応答が袋小路に陥っても、その後の追跡から、当事者がちゃんと「最適な答」にたどりついていくこともあります。本報告書はこうした相談活動の醍醐味が、伝わってくるものとなっています。

私たちの描く多文化共生社会とは？ 私たちの住む日本社会を、在日外国人も日本人も住みよい社会に変え、多文化共生社会として成熟させて行くヒントは、きっと相談活動のなかで出会う、相談ケースの中に潜んでいることでしょう。



## 5. 外国につながる子ども支援のための 関係機関連絡会について

公益財団法人かながわ国際交流財団との共催で「外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会」を実施しています(年2回: 東部地域1回、西部地域1回)。県内における外国につながる子ども支援のサポート体制強化と情報交換を目的としています。県内教育委員会および関係機関と、支援体制の現状と課題の共有を行っています。

年度	日程	参加機関	議題
2011 年度	東部地域 2011年 10月5日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 4団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	(1) 外国につながる子どもの教育支援関係者対象の研修・意見交換会等の実施について (2) 入学および転編入する子どもの受入体制について (3) 外国につながる子どもの支援、保護者対応のための外部機関との連携について (4) 外国につながる子どもの高校進学について (5) その他
	西部地域 2011年 11月21日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 10団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	
2012 年度	東部地域 2012年 11月9日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 8団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	(1) 外国につながる子どもに対する初期支援・初期指導について (2) 発達障害をもつ外国につながる子どもについて (3) 多言語情報の共有について (4) 外国につながる子どもの日本語力・学力の評価について (5) 外国につながる子どもへの支援について (6) その他
	西部地域 2012年 10月17日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 10団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	
2013 年度	東部地域 2013年 10月10日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 7団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	(1) 転編入する外国につながる子どもの受入体制について (2) 外国につながる保護者への情報支援について (3) 支援関係者による外国につながる子どもへの支援について (4) 学校内での支援について (5) 日本語指導が必要な児童生徒を対象にした「特別の教育課程」の編成・実施について (6) その他
	西部地域 2013年 11月7日	神奈川県教育委員会 県内教育委員会 6団体 NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわ (公財)かながわ国際交流財団 (公社)青年海外協力協会	

<外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会 共催団体より>

「外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会」

公益財団法人かながわ国際交流財団  
多文化共生・協働推進課  
富本潤子

「タミル語の子どもが小学校に編入することになり、通訳を探している」「国際教室担当教員向けの研修の講師をお願いできる人はいないか」

神奈川県内の小中学校に在籍する外国籍の子どもは約 6,000 人。日本国籍を保有する「外国につながる子ども」も含め、その数は増加傾向にあり、学校現場や教育委員会では、冒頭に挙げたような様々な対応に日々追われている。県および県内市町村教育委員会は、日本語指導や通訳人材の学校への派遣や研修の開催など様々な役割を担っているが、多岐にわたる外国につながる子ども支援のニーズや課題に、一つの地域だけでは対応が難しいのが現状である。

「外国につながる子ども支援のための関係機関連絡会」(以下、連絡会)は、そのような外国につながる子どもが多く在籍する市町村の教育委員会等に呼びかけ、情報共有やネットワークづくりを目的に毎年県内2か所で開催している。

この連絡会は神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)で外国人教育相談を運営する(公社)青年海外協力協会と、多文化共生教育関連の事業を実施する(公財)かながわ国際交流財団が共催している。連絡会には教育委員会の他、県総合教育センター、県教育事務所、教育分野で長い実績のある NGO など約 20 の機関・団体関係者が参加し、それぞれの役割や経験、持ち味を生かしてアイデアや意見をやりとりする場となっている。

新規来日の子どもに対するオリエンテーション、日本語指導で使用する教材、保護者向け多言語資料の整備、高校進学保障など、外国につながる子ども特有のニーズに対応するため、様々な工夫を凝らしながら取り組みを進めている地域がある。就学前に日本の小学校生活について伝える通訳つきの説明会や、入学前に子どもが通うプレスクールなど義務教育以前の期間まで対象を広げた取り組みから、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門人材を活用した支援を展開している地域もある。連絡会は、そのような事例を紹介することで、各地域のニーズに即した取り組みのあり方、予算面での工夫まで様々な議論を行う機会となっている。

2015 年度から本格始動する「特別の教育課程による日本語指導」など新たな動きがあるが、教育委員会および教育関連機関間のネットワークを発展させ、外国につながる子ども達の支援をより充実する手段の一つとして連絡会を継続させていきたいと考えている。

## 6. フィールドワーク受入について

あーすぷらざでは、多文化共生を学ぶための「フィールドワーク」を受け入れています(通年)。多文化共生分野に携わる教育機関やNPO等のサポートを目的としています。あーすぷらざの事業紹介や、多文化共生をテーマにした講義・ワークショップ、相談員との意見交換、資料活用の紹介などを行っています。大学講義や教員研修の一環としてご活用いただけます。

年度	対象	内容
2011 年度	横浜市立大学 国際学部 学生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報フォーラム、映像ライブラリーの見学</li> <li>2. 外国人教育相談事業紹介 (教育相談基本情報、相談コーディネーターの話)</li> </ol>
2012 年度	横浜国立大学 教育人間科学部 学生	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報フォーラム、映像ライブラリーの見学</li> <li>2. 外国人教育相談事業紹介 (窓口の特徴、スペイン言語サポーターの話)</li> <li>3. 情報フォーラム&amp;映像ライブラリーの利用</li> </ol> 
	東京都内 夜間中学校教諭	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あーすぷらざ概要紹介</li> <li>2. あーすぷらざ外国人教育相談 窓口概要 神奈川県・横浜市の支援体制について</li> <li>3. 相談サポーターより 各国の事情 (生活習慣や学校事情、親が学校に求めるもの等)</li> </ol> 

	<p>横浜市立大学 国際学部 学生</p>	<p>【第1回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. あーすぷらざ施設概要、外国人教育相談事業紹介</li> <li>2. 情報フォーラム、映像ライブラリーの見学</li> <li>3. 情報フォーラム・映像ライブラリー利用</li> </ol>  <p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国人教育相談事業紹介 (窓口の特徴、タガログ言語サポーターの話)</li> <li>2. 質疑応答および意見交換</li> </ol> 
<p>2013 年度</p>	<p>玉川大学 教育学部 学生</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講座「神奈川県外国籍住民の概要と多文化共生について」</li> <li>2. ワークショップ「ペルーからの転校生」</li> <li>3. 講座「外国につながる子どもたちの教育について」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・あーすぷらざ外国人教育相談窓口概要</li> <li>・教育現場の状況 など</li> </ul> </li> <li>4. 館内見学</li> </ol> 
	<p>横浜国立大学 教育人間科学部 学生</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. あーすぷらざの施設概要 映像ライブラリー・情報フォーラム見学および利用</li> <li>2. あーすぷらざ外国人教育相談の概要</li> <li>3. 外国人教育相談 中国言語サポーターとの意見交換</li> </ol> 

## 7. ・教育相談に関わるスタッフ派遣 ・多文化共生の出前講座

あーすぷらぎでは、「教育相談スタッフ派遣」「多文化共生の出前講座」を実施しています(通年)。教育機関のサポートを目的としています。あーすぷらぎ教育相談コーディネーターやサポーターによる現地での情報提供や、あーすぷらぎスタッフによる多文化共生をテーマにした講義を行っています。講義や研修、フォーラム等の一環としてご活用いただけます。

### (1) 教育相談に関わるスタッフ派遣

藤沢市国際教室配置校担当者会主催 保護者合同懇談会

2012年度 相談コーディネーター1名

2013年度 相談コーディネーター2名、言語サポーター3名（スペイン語、ポルトガル語、中国語）



### (2) 多文化共生の出前講座（講師派遣）

年度	対象	内容
2011年度	宇都宮大学 外国人児童生徒教育に関わっている関係者、大学関係者等	「外国につながる子どもフォーラム 2011」 ・外国につながる子どもたちの教育を考える
	横浜YMCA 多文化相談ボランティア	「多文化相談ボランティア養成講座」 ・外国籍住民支援の実際
2012年度	神奈川県内 日本語教材 開発グループ	当事者として感じる生活に直結する必要な日本語
	NPO 法人多言語教育研究所 群馬県内 教育関係者、公立 学校教員、学生、保護者など	多言語による特別支援教育の現状と可能性
	うらやす市民大学 講座受講生	地域と多文化共生
	(公財) 栃木県国際交流協会 相談員・通訳協力者等	外国人児童教育支援に関わる相談員や通訳協力者の役割
	(公財) 横浜市国際交流協会 日本語ボランティア	多文化共生・社会参加の視点から地域日本語教室を考える 「実生活と結びついた学習活動を考えよう」

2013 年度	八王子市教育委員会 日本語指導担当者	「外国につながる児童・生徒のよりよい学校生活のために」
	東京都文京区 日本語教室ボランティア	「やさしい日本語」の理解と実践
	横浜市立小学校教員	「多文化共生～外国につながる子どもたちとの関わりをどのようにしていくか～」 ・外国につながる子どもたちと関わるにあたって
	神奈川県立高校教員	・神奈川県外国籍住民の概要と多文化共生について ・外国につながる子どもたち
	MCE 多文化共生教育研究会	神奈川外国人教育支援『あーすぷらざ』の近年の動向とこれからの課題 ー日本語学習者と保護者の実態も踏まえてー

#### 相談サポーターの声⑩ 相談を受けるときの心構えについて

- ・「うちの子ともそうだよ。」「そんなこともある。」など共感しながら話を聞いている。日本語の問題もあるので、「日本語ができるといいよ。」なども伝え、少しでもいいから先生との会話ができるように促す。
- ・自分から話しやすくなるために、リラックスできるような雰囲気を作る。
- ・相談者の話を共感して聞くように心がけている。
- ・無。先入観はなし。相談者の言っていることをきちんと聞くように心がけている。中立、客観的な立場で伝えるように心がけている。相談者がまた来たいと思ってもらえるようにと思い、対応している。
- ・答えを求めに来る人には選択肢を提示して相手が選んで決めていけるよう心がけている。
- ・南米にも国がたくさんあり、考え方がそれぞれある。気持ちと考え方は国によってちがう。日本ではその考え方とは違うこと、当たり前じゃないことを伝えるようにしている。伝えるときにきちんと伝え、もめないように気にして接している。なんでもかんでも情報提供しないで、なるべく自分でできることは自分でやってもらうようにしている。
- ・笑顔での対応を心がけている。

## 編集後記（おわりに）

相談窓口は港のようなところではないかと思います。人、情報、モノが集まり、それが内陸へ、また外洋へと広がっていく場所。受け入れるための入口であり、外に向かって開かれた窓。相談事という荷物を抱えた人が、やれやれと荷を下ろし、次なる航海へ向けエネルギーを補給し、新たな行き先へと出航していく港。以前、港で通訳をしていた時、港は作っただけではよい港にはならず、航路を開拓し、目印になる灯台を建て、迷わず入港できる正確な信号を送り、優秀な水先案内人を擁し、絶えず流れ込む土砂をさらって安全に接岸できる水深を確保し、効率的な積み卸し手段を整え、後背地と迅速に結ぶ物流ラインの整備が大切と教わりました。相談窓口も開設しただけでは人は来ないし、使い勝手が変われば、来る人も途絶えてしまいます。

外国につながるのある子どもたちの増加に伴う教育課題の解決に向け、神奈川県国際交流協会（現（公財）かながわ国際交流財団）が外部の声を聞き、調査と準備を重ね、教材のリソースセンターと教育相談窓口を、県の指定管理事業としてスタートさせたのは 2006 年のことでした。コーディネーターとして雇われた私は、以来、相談者及び実施する側の移り変わりを間近で見してきました。学校教育、社会教育に関する不安や困り事を抱えた外国人市民、学校関係者、支援者が気軽に立ち寄り、豊富な図書資料を駆使して自ら解決の道を探ることができるよう、人や情報が集まり、行き交うライブラリーの一角に相談窓口を設けたのは、実施者の慧眼でした。司書との連携、NPO や教育委員会とのパイプづくりにも力が注がれ、指定管理者が JOCA に代わった後もこれらは引き継がれ、相談対応に大きく役立っています。県の指定で 2011 年に対応言語と開設時間が大幅に増え、相談件数が倍増しました。2012 年秋に JOCA スタッフの発案で相談スペースが拡大、大きなテーブルを囲んで家族や支援者を交えた相談がしやすくなりました。相談スタッフも増えましたが、こどもの利益を第一に考え相談対応する精神は、今も受け継がれています。ここを訪れ、旅立っていった人は数知れません。これからも良き港でありたいと願っています。

教育相談コーディネーター 加藤 佳代

あーすぷらざ外国人教育相談の強みは 4 人のコーディネーターと 8 人の言語サポーターが異なるフィールドで培ってきた体験とそれぞれが築いてきた人的ネットワークの多様さにあります。相談者のニーズに合った資料や教材に関する情報が求められた時は情報フォーラムや映像ライブラリーの司書スタッフの協力を助けられ、難しい相談対応にあたっては（公財）かながわ国際交流財団や NPO 法人多文化共生教育ネットワークかながわと共催のケース会議での確かな助言が得られることも相談者の課題解決のための大きな力になっています。異なる文化や価値観を背景に持ち、個人としての生い立ちや来日後の生活状況も一様でない学習者や保護者からの相談対応は簡単ではありませんが、相談者に寄り添い、直接、言葉（情報）やまなざしを交わし合う中で相談者の心のうちにある「未来へ向かうベクトル」に働きかけができるよう、これからさらに相談対応のスキルを高めていきたいと思っています。

教育相談コーディネーター 平塚 淑江

私の両親は戦後復興期に日本政府が行った移民政策を通してボリビアへ渡りました。夢の国と言われていたそうですが現実には原生林の伐採から始まる開拓の日々だったそうです。そのようにしてボリビアの日本人移住地が誕生しもうすぐ60周年を迎えます。私はその初期に生まれました。開拓が進み学校も整備されましたが、私の小さい頃は中学校までしかなく、またこの学校は要支援学校というところでカトリックの神父やシスターがおられスペイン語と日本語で教育を受けました。日本人の先生からは問題が起こるとそれを止められなかった人もみんな同じだからと叱られ、シスター達からはできる人が助けるのは当然、いつもみんなが幸せになることが大切と教えられました。進学の際は多くの日本人保護者は農業従事者で町の高校に関する知識が少なかったので神父達が教育の大切さを熱心に説き子どもたちを進学に導いてくれました。そして今も多くの日本人とその子孫はボリビア社会の一員として幸せに暮らしています。悪戯をして叱られてばかりいた生徒たちに心を配り、みんなが自分の道に進めるよう言葉通り実践していた神父達の姿はその後も私の心に深く残りました。結婚を機に来日し、その後夫の仕事のため約10年間、外国で4人の子どもを育てましたがその際も行く先々で多くの方々に友だちとして受け入れて頂き励まされました。このような体験から1人でも多くの外国につながる子どもたちにも学ぶ喜びを知って日本社会にしっかり根付いてほしいという想いで当教育相談窓口業務に携わっています。

最後になりましたが相談を受けるなかで神奈川県では多くの先生方、支援者、ボランティアが外国につながる子どもたちを支援しておられ、子どもたちの大きな励みになっていると感じています。当報告書が1人でも多くの方に同様に理解、応援して頂けるきっかけになったら幸いです。

教育相談コーディネーター 佐藤 真由美 ルシア

教育相談を通して感じていることは、外国につながる方に日本に適應すること、日本語を学ぶことなどを求めるだけでなく、日本社会が柔軟に多文化を受け入れていく必要があるということです。多文化共生社会は遠くで起こっている話ではなく、自分のすぐ近く、隣で起こっていることだと理解し、学校や地域社会が多様性を認め受け入れていくことが大切です。日本に住む、多様な背景をもっている外国につながる子どもたちはこれからの日本を支えてくれる豊かな人材です。外国につながる子がいることは、その周りの子どもたち、取り巻く大人たちにとっても多文化を受け入れ、自分たちを見つめ直す絶好の機会となり、さらなる気づきにつながります。外国につながる子たちがいることで、子どもたちは違うことが当たり前だということを自然に学びお互いに成長していくことができます。走るのが得意な子、計算が得意な子、絵が上手な子、歌が上手な子など、子どもたち誰でもひとりひとりよいところもっています。外国につながる子は、日本の学校では得意ではないことがあるかもしれませんが、誰もが知らないその子の母国のことを知っています。その子にしかない経験もっています。いろいろな子どもたちがいるなかの大切なひとりであると大人が受け入れ、認め、ひとりひとりをあたたかく、時には叱咤激励しながら見守っていくことが何よりも重要なことだと思います。これからもひとりでも多くの外国につながる子どもたちが自分の道を見つけ、日本社会の中で活躍できるきっかけとなるよう教育相談に携わっていきたいです。

教育相談コーディネーター 兼 教育相談事務担当 徳野 早苗

外国につながる子どもたち、ハーフ、ダブル、在日、外国ルーツの子どもたち、外国人、彼らはいろんな言葉で形容される。自分は何者か。彼らはアイデンティティについて日本人児童生徒よりも思い悩むことが多いだろう。でも、悩んだ末に獲得した「自分」はきっと本物であり、私はそれを彼らの強みにしてほしいと願う。人の国際移動と価値の多様化が進む時代に、自分は何者かを明確に語ることは大きな武器になるはずだ。

「外国で暮らして初めて自分が日本人であることを認識した」と言う日本人は多い。それほど異質なものの出会いが、日本で普通に暮らす日本人にとっては乏しい。同質の集団の中で自分も同じ質を持っていると、自己を顧みる視点は育まれにくい。この点、外国につながる子どもたちは、多くの日本人よりも早く自分が何者かについて考える物差しを持つことができる。また、彼らが日本人に多様な視点を与えてくれる場合もあるはずだ。そう考えると、彼らは日本社会にとっての大きな財産であると思う。

以前、台湾、メキシコ、フィリピンにルーツを持つ子どもたちに勉強を教えていたことがある。日本語がうまく話せない。生活習慣についていけない。学校行事につまずく。友人関係に悩む。家庭と学校、毎日外国を行き来するようなもの。などなど、本報告書事例でも分かるように、彼らには勉強以前にクリアしなければならない課題は多い。

彼らには是非ひとつひとつ課題をクリアして、彼らにしかない強みを発揮して生きてほしい。そのためには、彼らの自助努力を大前提に、周囲の様々なサポートが必要となる。それをどう捉えるか。私は、外国につながる子どもたちの成長と周囲のサポートの過程は、異質なもの同士の相互理解が社会で育まれていく過程であり、日本社会、グローバル社会にとっての財産を育む過程と捉え、今後も歩んでいきたいと思う。

あーすぷらざ多文化共生・情報班 河内 智之

神奈川県 あーすぷらざ外国人教育相談 事業報告書  
2011年度～2013年度（平成23年度～平成25年度）

発行：2015年3月

発行者：公益社団法人 青年海外協力協会

【神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)指定管理者】

会長 金子洋三 館長 安部晋弘

企画：河内智之 徳野早苗（あーすぷらざ多文化共生・情報班）

編集：河内智之 徳野早苗

加藤佳代 平塚淑江 佐藤真由美ルシア(あーすぷらざ外国人教育相談事業スタッフ)

